

Honda車をお買いあげいただきありがとうございます。

安全に留意し快適なバイクライフをお楽しみください。

お車の引き渡しについて

★お買いあげになりましたら、Honda販売店にてこの取扱説明書と共に「メンテナンスノート」を受取り、下記の説明を受けてください。

- お車の正しい取扱いかた
- 保証内容と保証期間
- 点検・整備について
- 車両受領書・保証書受領書の記入・捺印

排出ガス規制について

★この車は排出ガス規制適合車です。
CBR1000RR (EBL-SC59 型) :
CBR1000RR ABS (EBL-SC59 型) :
平成19年排出ガス規制適合車

運転免許について

★この車を一般公道で運転するには、運転免許が必要です。ご自身の免許で運転できるか、確認してください。

この車の排気量：999 cm³ (cc)

排気量により必要な免許が異なります。

★この車の乗車定員は、運転者を含め2人です。
なお、運転免許を取得後1年未満の方は、法令により2人乗りはできません。

お車について

〈CBR1000RR ABS〉

★この車は、コンバインドABS (ABS付前後輪連動ブレーキ) を装備しています。
詳細については、15ページを参照ください。

- ★この取扱説明書には、お車の正しい取扱いかた、安全な運転のしかた、簡単な点検の方法などについて説明してあります。「安全に関する表示」「安全運転のために」「メンテナンスを安全に行うために」は重要ですので、しっかりお読みください。
- ★車の取扱いを十分にご存じの方も、この車独自の装備や取扱いがありますので、運転する前に必ずこの取扱説明書をお読みください。また、メンテナンスノートもぜひお読みください。
- ★車を譲られる場合、次の方にこの取扱説明書およびメンテナンスノートをお渡しください。
- ★車の仕様、その他の変更により、この本の内容と実車が一致しない場合があります。ご了承ください。
- ★この取扱説明書は、CBR1000RRを中心に説明してあります。
- ★Honda販売店で取付けられたHondaアクセサリなどの取扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

★安全に関する表示

「運転者や他の方が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。



危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの



警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの



注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

★その他の表示



アドバイス

お車のために守っていただきたいこと



知識

知っておいていただきたいこと

知っておくと便利なこと

目 次

安全運転のために	6	水温警告	37
触媒装置について	14	ホンダ・エレクトロニック・	
コンバインドABS		ステアリング・ダンパー (HESD) 警告	38
(ABS付前後輪連動ブレーキ)	15	コンバインドABS警告灯	39
各部の名称	17	PGM-FI警告灯	40
メータの見かた、使いかた	19	燃料残量警告灯	41
計器類	19	イモビライザーシステム (HISS) 表示灯	42
エンジン回転計 (タコメータ)	19	方向指示器表示灯	44
上ボタン	20	前照灯上向き表示灯	
下ボタン	21	(ハイビームパイロットランプ)	44
マルチファンクションディスプレイ	22	ニュートラル表示灯	45
速度計 (スピードメータ)	24	REVインジケータ	45
表示の切換え	25	REVインジケータの設定	46
積算距離計、区間距離計	26		
燃費計	29		
リザーブ燃料消費量表示	31		
時計	32		
水温計	34		
警告灯・表示灯	35		
警告灯	35		
油圧警告	36		

スイッチの使いかた	49
メインスイッチ	49
前照灯上下切換えスイッチ	
(ヘッドライト上下切換えスイッチ)	50
エンジンストップスイッチ	51
スタータスイッチ	52
ホーンスイッチ	52
パッシングライトスイッチ	53
方向指示器スイッチ	54
非常駐車灯スイッチ(ハザードスイッチ)	55

装備の使いかた	56
イモビライザーシステム(HISS)	56
ホンダ・エレクトロニック・	
ステアリング・ダンパー(HESD)	62
ハンドルロック	63
シート	64
ヘルメットホルダ	66
書類入れ	67
携帯工具スペース	68
ブレーキレバーの距離調整	69
フロントクッションの調整	70
リヤクッションの調整	73
U字ロック格納場所	76
ロアフェアリング	77
燃料の補給	78
正しい運転操作	81
エンジンのかけかた	81
チェンジのしかた	83
走りかた	84
ブレーキの使いかた	86

目 次

メンテナンスを安全に行うために	88	エンジンオイル	108
日常点検、定期点検、簡単なメンテナンス	91	オイル量の点検	108
日常点検	93	オイルの補給	109
定期点検	96	冷却水	113
簡単なメンテナンス	97	冷却水量の点検	113
ブレーキ	98	冷却水の補給	114
前輪ブレーキ	98	クラッチ	116
ブレーキ液の量の点検	98	クラッチレバーの遊びの点検	116
ブレーキパッドの摩耗の点検	99	バッテリー	120
後輪ブレーキ	100	バッテリーターミナル部の清掃	121
ブレーキ液の量の点検	100	バッテリーの取外し、取付け	122
ブレーキパッドの摩耗の点検	101	ヒューズ	124
タイヤ	102	ヒューズの点検、交換	124
空気圧の点検	102	エアクリーナ	128
亀裂と損傷の点検	103	エアクリーナエレメントの点検	128
異状な摩耗の点検	104	ケーブル・ワイヤ類	129
溝の深さの点検	104	ケーブル・ワイヤ類の点検	129
交換タイヤの選択について	105		
ドライブチェーン	106		
緩み(たるみ)の点検	106		
給油と清掃	107		

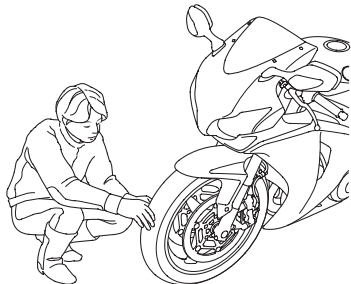
車のお手入れ	130
アルミ部品の取扱い	134
つや消し塗装の取扱い	134
フェアリングの取扱い	135
エキゾーストパイプ・マフラの取扱い	135
保管のしかた	136
ダンパユニットについて	137
地球環境の保護について	138
お車および部品等の廃棄をするとき	138
ポジションランプについて	141
ストップ・テールランプについて	141
色物部品をご注文のとき	142
マフラの純正マークについて	142
フレーム号機	143
オーバーヒートしたとき	144
エンジンが始動しないとき	145
主要諸元	146
サービスデータ	150

安全運転のために

ここであげた項目は、日常この車を取扱う上で必要な基本的なものです。これらの項目をいつもお守りいただき、安全運転を心がけてください。

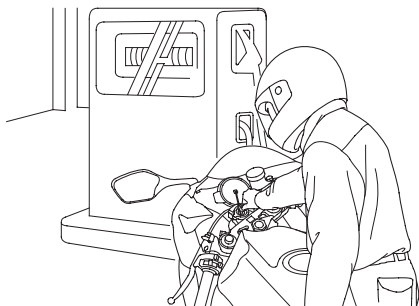
運転する前に

- 日常点検を行ってください。
車は常に清潔に手入れをし、定められた点検整備を必ず行いましょう。
日常点検は、93 ページ参照。

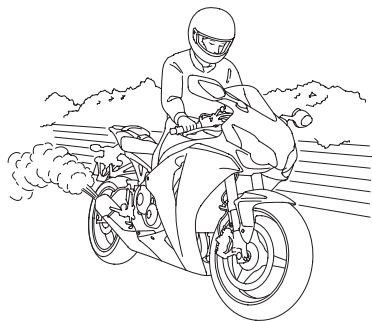


- 定期点検を実施してください。
定期点検は、96 ページ参照。

-
- ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。



- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。エンジンは、風通しの良い場所でかけてください。



安全運転のために

服装

- 運転者と同乗者は、必ずヘルメットを着用してください。これは、法令でも定められています。ヘルメットの着用は、あごひもを確実に締めるなど、正しく行ってください。ヘルメットは二輪車でPSC、SGマークかJISマークのあるものをお勧めします。頭にしっかり合って圧迫感のないものをお選びください。
- 保護具や保護性の高い服を着用してください。
 - ・フェイスシールドまたはゴーグルの使用
 - ・くるぶしまで覆い、かかとのある靴の着用
－二輪車用ブーツが望ましい
 - ・摩擦に強い皮製の手袋の着用
 - ・長ズボンと長袖のジャケットの着用
－明るく目立つ色の動きやすい服装で体の露出の少ないものを着用してください。
－すその広いズボンや袖口の広いジャケットは、ブレーキやチェンジ操作のじゃまになり思わぬ事故の原因にもなりますので避けてください。

警告

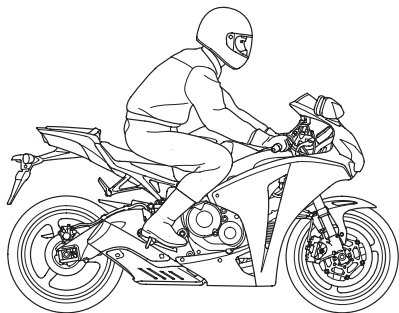
ヘルメットを正しく着用していないと、万一の事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

運転者と同乗者は乗車時、必ずヘルメット、保護具および保護性の高い服を着用してください。

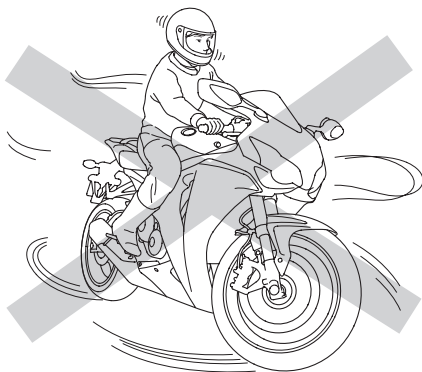


乗りかた

- 走行中は、運転者は両手でハンドルを握り、両足をステップに置いてください。
- 同乗者は、両足を後席用ステップに置き、両手からだを保持してください。運転者は、同乗者の乗車姿勢を確認してください。



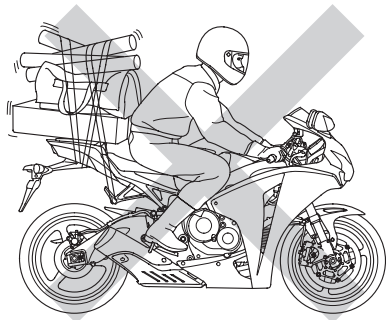
- 急激なハンドル操作や、片手運転は避けてください。これは、すべての二輪車の安全運転の原則です。



安全運転のために

荷物

- 荷物を積んだときは、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。積載するときは、“積み過ぎない”、“荷物を固定する”など十分注意し、安全に走行してください。
- ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作ができなくなる場合があります。物を置かないでください。
- ヘッドライトレンズの前を荷物等でさえぎらないでください。過熱によりレンズが溶けたり、荷物等まで損傷する場合があります。



改造

- 車の構造や機能に関する改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることがあります。
不正改造は法律に触れることは勿論、他の迷惑行為となります。
このような改造に起因する場合は、保証が受けられません。
- この車は平成19年排出ガス規制適合車です。
排出ガス濃度を劣化させるような不正改造は行わないでください。
また、マフラには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。
他のマフラをこの車に取付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。
マフラを交換する場合は、Honda販売店にご相談ください。

安全運転のために

駐車

駐車するときは

盗難防止のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーを抜いてお持ちください。

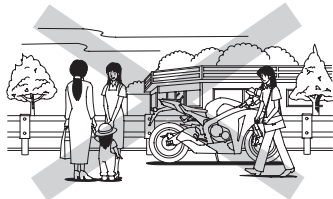
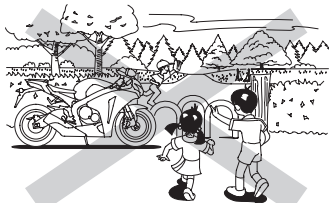
- 水平でしっかりした地面の場所に駐車してください。
- 交通のじゃまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。
- やむをえず傾斜地、砂利を敷いた所、でこぼこな所、地面の軟らかい所等に駐車せざるを得ないときは、車の転倒・動き出しのないよう、安全処置に十分留意してください。

サイドスタンドでの駐車について

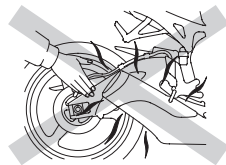
車は水平な場所にハンドルを左にきって駐車しましょう。

ハンドルを右にきった状態での駐車は、車が不安定になり、転倒する恐れがあります。

- マフラなどが熱くなっています。他の方が触れることのない場所に駐車しましょう。



- エンジン回転中および停止後しばらくの間はマフラ、エンジンなどに触れないでください。



⚠ 注意

マフラ、エンジンなどは、エンジン回転中および停止後しばらくの間は熱くなっています。このとき、マフラ、エンジンなどに触れるとヤケドを負う可能性があります。

- エンジン回転中および停止後しばらくの間はマフラ、エンジンなどに触れないでください。
- 他の方がマフラ、エンジンなどに触れることのない場所に駐車してください。

触媒装置について

触媒装置の働き

この車のマフラには、触媒装置が内蔵されています。

触媒装置の働きにより、排出ガスに含まれる一酸化炭素(CO)、炭化水素(HC)の2つの有害物質の排出量を低減します。

可燃物には注意を

触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。

触媒装置を大切に

不適切な取扱いをすると触媒温度が異常に高くなり焼損するおそれがありますので、次のような取扱いはしないでください。

《不適切な取扱いの例》

- 走行中にメインスイッチのキーを操作すること。
- エンジンを止めるとき、空ぶかし直後にメインスイッチのキーを切ること。

触媒装置が損傷したまま使用すると排出ガス濃度を劣化させるだけでなく、この車本来の性能を発揮できなくなりますので次のことをお守りください。

- 燃料は必ず無鉛ガソリンをご使用ください。
- 定められた点検整備を実施してください。
- 点火系、充電系、燃料系の不調は触媒装置に大きく影響を与えますので、エンジン不調を感じたときはただちにHonda販売店で点検を受けてください。

コンバインドABS (ABS付前後輪連動ブレーキ)

コンバインドABS (ABS付前後輪連動ブレーキ)

〈CBR1000RR ABS〉

コンバインドABSは、前輪ブレーキレバーや後輪ブレーキペダルを別々に作動させても、ブレーキ入力圧と車輪の回転速度に応じて前・後輪に制動力を分配する機能(コンバインドブレーキシステム)と、直進制動時のブレーキのかけすぎによる車輪ロックを制御する機能(ABS)を電子制御化し、統合したシステムです。

ブレーキは、ブレーキレバーとブレーキペダルを同時に使いましょう。別々に操作をしても、前・後輪に制動力を分配しますが、効果的に制動力を得るためには、ブレーキレバーとブレーキペダルを同時に使う必要があります。

以下の条件のとき、一時的にブレーキレバーの引きしろとブレーキペダルの踏みしろが変化することがあります。

- メインスイッチを“ON”にした直後
- 走行中停止し、ブレーキをかけなおしたとき

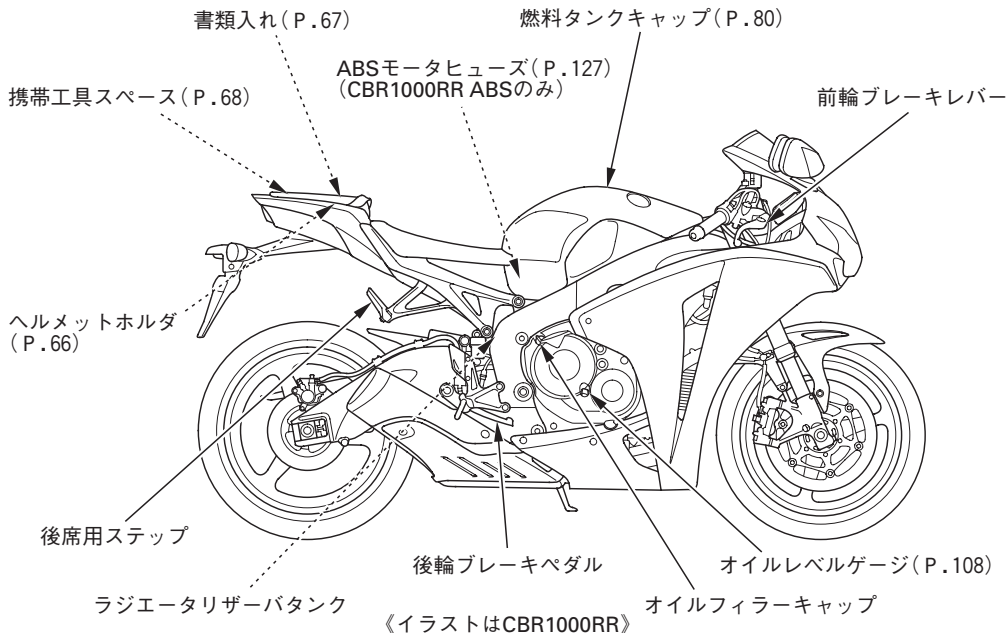
コンバインドABSは、道路の状態、判断ミス、ブレーキの不適切な使用を補完したり、後輪の浮き上がりを完全に防止したりするものではありません。天候や路面状況、交通状況に応じて適正な速度で走行し、安全運転を心がけてください。

コンバインドABS (ABS付前後輪連動ブレーキ)

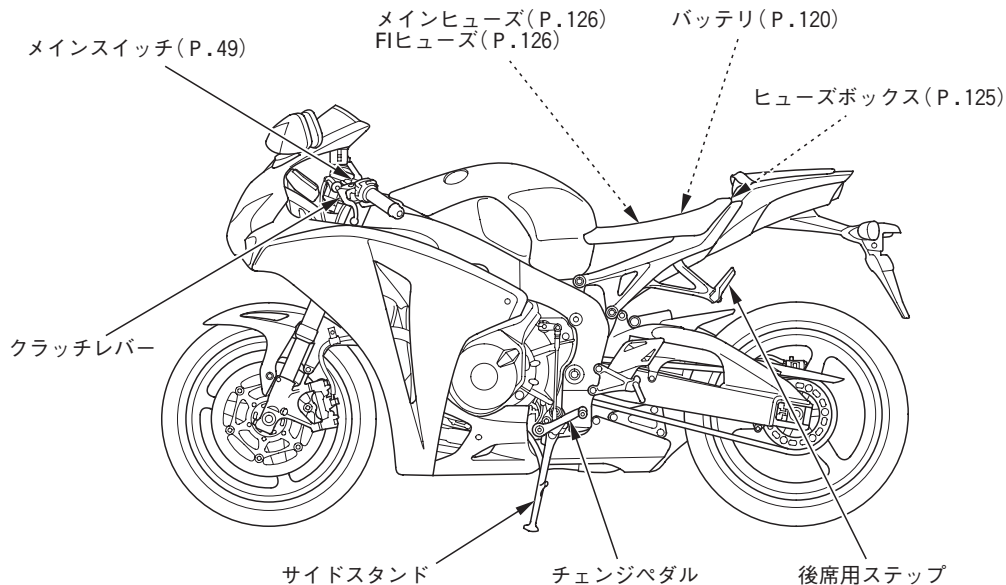
知識

- この装置は制動距離を短くするためのものではありません。コンバインドABSを装備していない車両と同様に、路面が滑りやすくなるほど長い制動距離が必要になります。
- 車両を確実に停止させるため、低速(約6 km/h以下)ではコンバインドABSは作動せず、通常のブレーキと同じ作動になります。
- タイヤは必ず前・後輪とも指定タイヤをお使いください。サイズ(外径)の異なるタイヤを使用すると、コンバインドABSが正常に機能しなくなることがあります。
- コンバインドABSは、バッテリー電圧が低下していると作動しません。
- コンバインドABSは、ABSメインヒューズかABSモータヒューズが切れているときは作動しません。

各部の名称



各部の名称



《イラストはCBR1000RR》

メータの見かた、使いかた

計器類

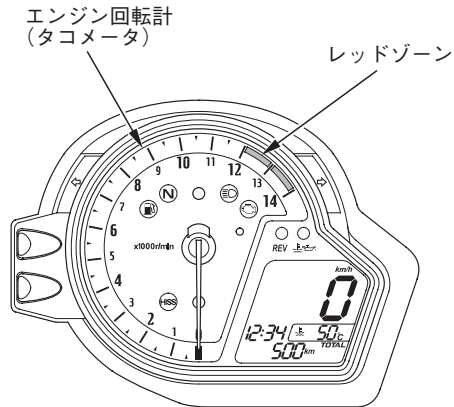
エンジン回転計(タコメータ)
エンジンの回転数を示します。

エンジン回転数がレッドゾーンに入らないようにしてください。

メインスイッチのキーを“ON”の位置にすると、エンジン回転計(タコメータ)の指針は、一度レッドゾーンに振れた後、“0”に戻ります。

🏍️ アドバイス

- 空ぶかし及び1速2速ギヤ位置での急加速はレッドゾーンに入りやすいので特に注意してください。
レッドゾーンとはエンジンの限界回転域を示したものです。レッドゾーン以上で使用するとエンジン回転が不円滑になり、エンジン寿命に悪影響を与えるだけでなく、最悪の場合エンジンがこわれます。



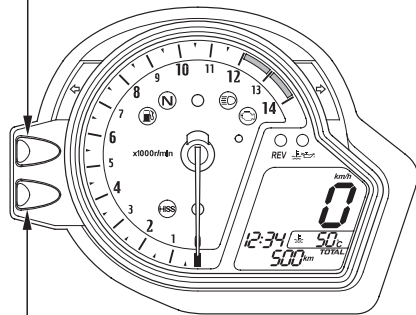
メータの見かた、使いかた

上ボタン

次の場合に使用します。

- 積算距離計(オドメータ)と区間距離計(トリップメータ)の表示切換え(25、26ページ参照)
- 燃費計の表示切換え(25、29ページ参照)
- 区間距離計(トリップメータ)のリセット(27ページ参照)
- 区間距離計(トリップメータ)の給油連動リセットの作動/非作動切換え(28ページ参照)
- 時刻合わせ(32ページ参照)
- REVインジケータの設定(46ページ参照)
- イモビライザーシステム(HISS)表示灯の設定(43ページ参照)

上ボタン



下ボタン

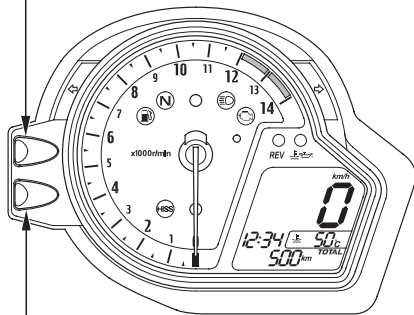
下ボタン

次の場合に使用します。

- 燃費計の表示切換え(25、29ページ参照)
- 区間距離計(トリップメータ)の給油連動リセットの作動/非作動切換え(28ページ参照)
- 時刻合わせ(32ページ参照)
- REVインジケータの設定(46ページ参照)

安全運転に支障をきたすおそれがありますので走行中は上ボタン、下ボタンの操作は行わないでください。

上ボタン



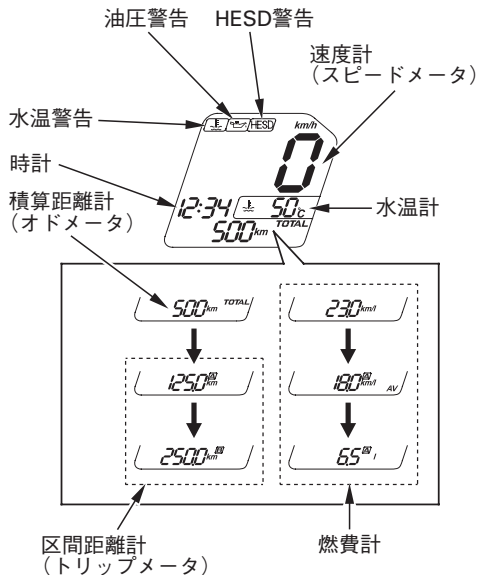
下ボタン

メータの見かた、使いかた

マルチファンクションディスプレイ

速度計(スピードメータ)、積算距離計(オドメータ)、区間距離計(トリップメータ)、時計、水温計の表示を行います。

また、車の異常時には警告内容が点灯表示されます。水温または油圧の異常時には、同時に警告灯が点灯します。(35~37ページ参照)



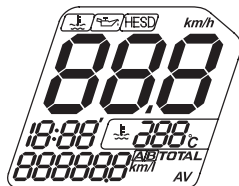
《初期表示》

メインスイッチのキーを“ON”の位置にすると、すべての表示があらわれます。

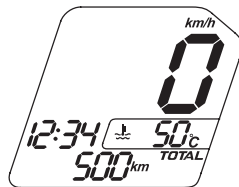
このとき表示されない部分がある場合は、お買い上げのHonda販売店で点検を受けてください。

約1秒後に通常表示となります。

[初期表示]



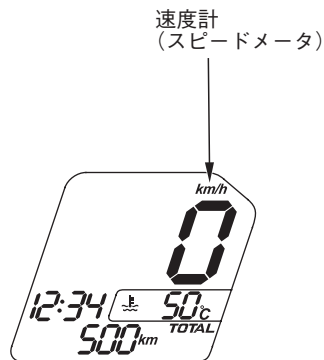
[通常表示]



メータの見かた、使いかた

[速度計(スピードメータ)]

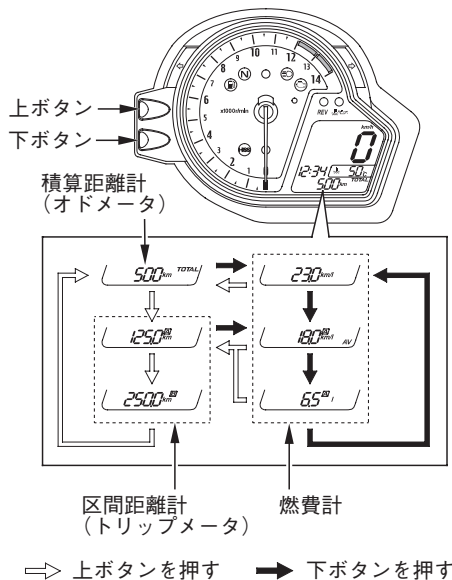
走行中の速度を示します。法定速度を守り安全走行してください。



[表示の切換え]

上ボタンまたは下ボタンを押すごとに、マルチファンクションディスプレイ下部の表示が右図のように変わります。

燃費計は瞬間燃費、平均燃費、燃料消費量の表示ができます。(29ページ参照)



メータの見かた、使いかた

[積算距離計、区間距離計]

積算距離計(オドメータ)

走行した総距離をkmの単位で示します。

区間距離計(トリップメータ)

メータをリセット(“0”に戻す)した時点からの走行距離を示します。

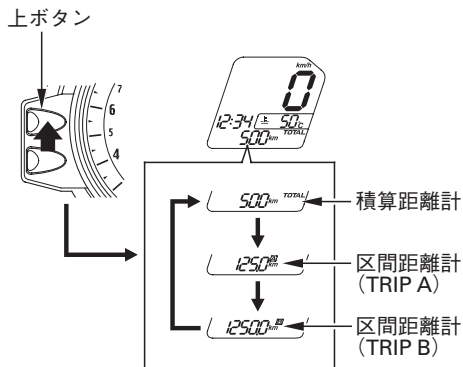
区間距離計(トリップメータ)には“TRIP A”、“TRIP B”のモードがあります。

“TRIP A”は、0~999.9 kmまで表示します。また、999.9 kmを超えると0 kmに戻ります。

“TRIP B”は、0~9,999.9 kmまで表示します。また、9,999.9 kmを超えると0 kmに戻ります。

表示の切換え

上ボタンを押すごとに表示が右図のように変わります。



区間距離計 (TRIP A) のリセット

“TRIP A”、平均燃費または燃料消費量の状態で上ボタンを2秒以上押し続けます。

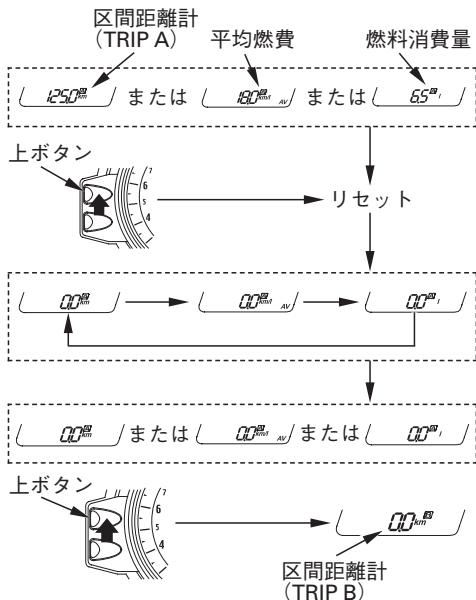
リセットされると、右図のように順番に“0.0”を表示した後、もとの表示に戻ります。

知識

- TRIP Aをリセットすると、平均燃費、燃料消費量も同時にリセットされます。
- TRIP Aと燃費計を給油と連動させて、給油時に自動的にリセットさせることができます。(28ページ参照)

区間距離計 (TRIP B) のリセット

“TRIP B”の状態では上ボタンを2秒以上押し続けます。



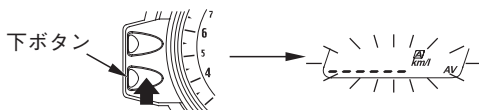
メータの見かた、使いかた

給油連動リセットの設定

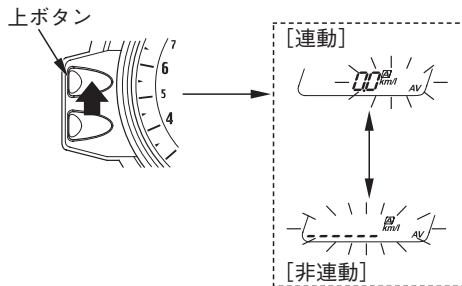
給油時に燃料タンク内のガソリンの量が一定量を超えると、自動的に区間距離計(TRIP A)、平均燃費、燃料消費量をリセットさせることができます。リセットするときの燃料タンク内のガソリンの量：
約 3.5ℓ

給油連動リセットは、以下の操作を行うことで、“連動”または“非連動”を設定することができます。工場出荷時は“非連動”に設定されています。

1. 下ボタンを押しながらメインスイッチを“ON”にします。(メータの初期表示終了まで下ボタンを押し続けます。)給油連動設定モードに切りかわり、“-----”表示が点滅します。



2. 上ボタンを押し設定します。ボタンを押すごとに“連動”、“非連動”が切りかわります。



3. 設定が終わりましたら下ボタンを押すか、またはメインスイッチを“OFF”にしてから再度“ON”にしてください。表示の点滅が消え、通常表示に戻ります。

設定時、約30秒間ボタンの操作がない場合、設定は無効となり、設定前の状態に戻ります。

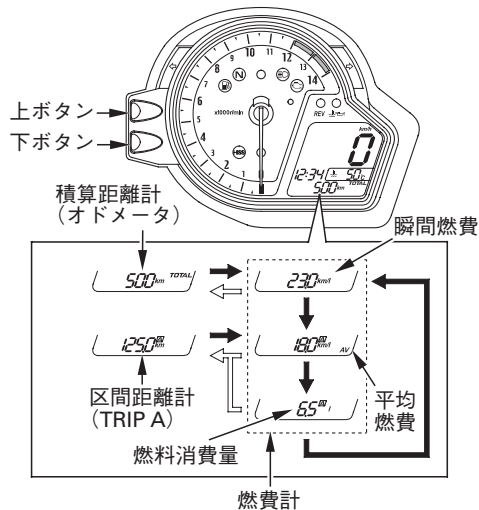
[燃費計]

瞬間燃費またはTRIP Aと連動した平均燃費、燃料消費量の表示ができます。

表示の切換え

積算距離計(オドメータ)または区間距離計(TRIP A)の状態のときに燃費計を表示できます。

上ボタンまたは下ボタンを押すごとに表示が右図のように変わります。



⇨ 上ボタンを押す ➡ 下ボタンを押す

メータの見かた、使いかた

瞬間燃費

瞬間燃費をkm/ℓの単位で表示します。
速度が0km/hのときは“—.—”表示になります。

平均燃費

TRIP Aと連動し、平均燃費を約15秒ごとに更新して、km/ℓの単位で表示します。
TRIP Aをリセットしてから次にリセットするまでの平均燃費を表示します。
TRIP Aをリセットすると平均燃費表示は“0.0”になります。

燃料消費量

TRIP Aをリセットしてから次にリセットするまでの燃料消費量をℓの単位で表示します。
TRIP Aをリセットすると燃料消費表示は“0.0”になります。

知識

- 表示される燃費値は走行中の瞬間的な値ですので、満タンにし計測した値とは異なります。
経済運転をする上での目安としてご利用ください。
- 平均燃費表示が“—.—”表示になったときまたは、燃料消費量表示が“—.—.—”表示になったときは、お買い上げのHonda販売店で点検を受けてください。

[リザーブ燃料消費量表示]

燃料残量警告灯が点灯してからの燃料消費量を点滅表示します。警告灯が点灯するとマルチファンクションディスプレイの下部の表示がリザーブ燃料消費量表示に切り替わります。表示を目安に、早めにガソリンを補給してください。

燃料残量警告灯が点灯したときの燃料有効残量：
約 3.5ℓ

リザーブ燃料消費量は0.0 ℓから表示されます。1.0 ℓを超えると速い点滅に変わります。

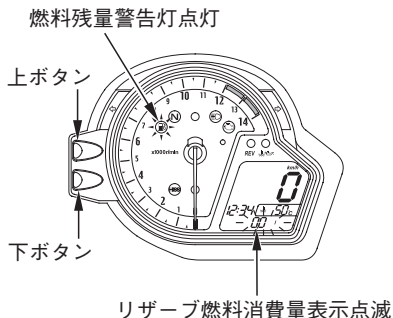
給油後、燃料タンク内のガソリンの量が一定量を超えると、メインスイッチを“ON”にしてから約1分後に通常表示に戻ります。

通常表示に戻るときの燃料タンク内のガソリンの量：

約 3.5ℓ

知識

- リザーブ燃料消費量が表示されている状態で上ボタンを押すと積算距離計に、下ボタンを押すと瞬間燃費に切り替わります。その後は、上ボタン、下ボタンを押すごとに区間距離計や平均燃費などを表示できます。(26、29ページ参照)
約10秒間ボタンの操作がない場合、リザーブ燃料消費量表示に戻ります。



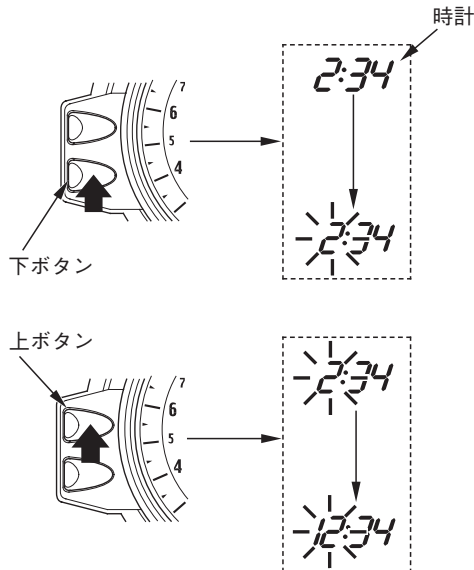
メータの見かた、使いかた

[時計]

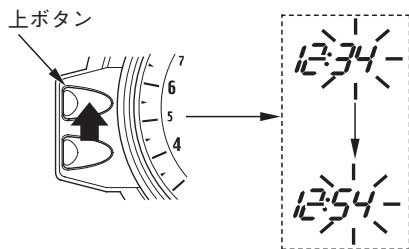
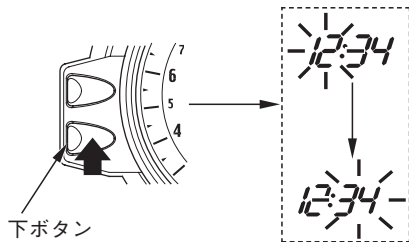
時計は12時間表示で時刻を表示します。

《時刻の合わせかた》

1. メインスイッチを“ON”にします。
2. 下ボタンを2秒以上押し続けます。時計が時刻修正モードに切換わり、“時”の表示が点滅します。
3. 上ボタンを押し“時”を修正します。
ボタンを1回押すと数字はひとつだけ進み、
ボタンを押し続けると数字が進みます。



4. 下ボタンを押して“時”を決定します。決定と同時に“分”が点滅します。
5. 上ボタンを押し、“分”を修正します。
ボタンを1回押すと数字はひとつだけ進み、ボタンを押し続けると数字が進みます。ただし数字は59から00に戻ります。
6. 設定が終わりましたら下ボタンを押すか、またはメインスイッチを“OFF”にしてから再度“ON”にしてください。表示の点滅が消え、通常表示に戻ります。



時刻修正時、約30秒間ボタンの操作がない場合、時計の修正は無効となり、修正前の時刻に戻ります。

バッテリー交換などでバッテリーコードを取外し、再び取付けたとき、表示は1:00になります。

メータの見かた、使いかた

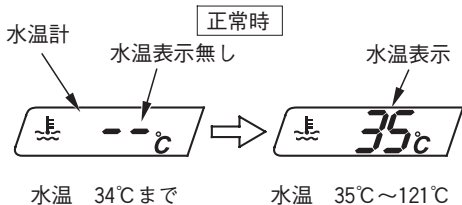
[水温計]

エンジン冷却水の温度を表示します。

水温は、35 °Cから表示が始まり 132 °Cまで表示します。(34 °C以下は表示しません。)

エンジン回転中は、水温表示が 121 °C以下になっているのが正常です。

水温表示が 122 °C以上になり点滅した場合、オーバーヒートのおそれがあります。37 ページを参照してください。

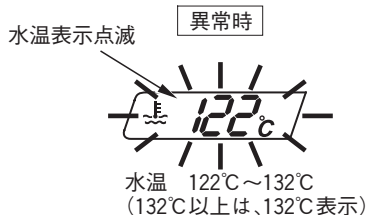


🏍️ アドバイス

- 警告灯と水温警告が点灯し、水温表示が点滅表示したまま、走行を続けるとエンジン故障の原因となります。

🏠 知識

- 水温が100°C以上になる場合がありますが、沸騰温度をラジエータキャップにより高めであるためで異常ではありません。
- 高温下での長時間にわたるアイドリングにより、警告灯と水温警告が点灯し、水温表示が点滅する場合があります。この場合は、走行してエンジンを冷やすか、エンジンが冷えるまで停止してください。



警告灯・表示灯

警告灯

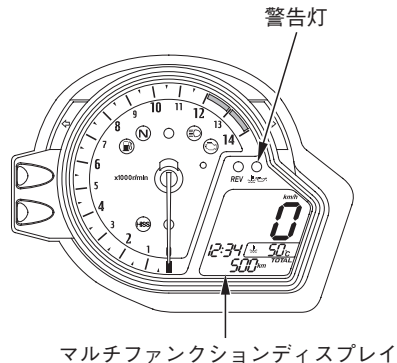
車の異常時に点灯します。

警告内容は、マルチファンクションディスプレイに点灯表示されます。

警告内容については、36 ~ 37 ページ参照。

知識

- 警告灯は、メインスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると同時に消灯するのが正常です。



メータの見かた、使いかた

油圧警告

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると警告灯とともに点灯します。

エンジン回転中に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車してエンジンを止め、エンジンオイル量を点検してください。

エンジンオイルが減っていないのに点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、ただちにHonda販売店にご相談ください。エンジンオイル量の点検は、108 ページ参照。

アドバイス

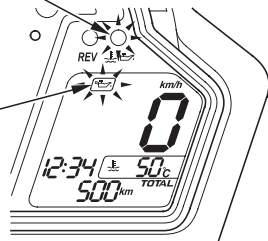
- 警告灯と油圧警告が点灯したまま走行しないでください。エンジンが破損するおそれがあります。

知識

- 油圧警告は、メインスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると同時に消灯するのが正常です。

警告灯点灯

油圧警告点灯



水温警告

メインスイッチが“ON”のとき、エンジン冷却水の温度が 122 ℃以上になると水温警告が警告灯とともに点灯し、水温表示が点滅します。

エンジン回転中に点灯した場合、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車してください。

処置手順は、144 ページ参照。

🏍️ アドバイス

- 警告灯と水温警告が点灯し、水温表示が点滅表示したまま、走行を続けるとエンジン故障の原因となります。

🎓 知識

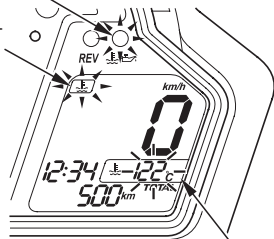
- 高温下での長時間にわたるアイドリングにより、警告灯と水温警告が点灯し、水温表示が点滅する場合があります。この場合は、走行してエンジンを冷やすか、エンジンが冷えるまで停止してください。

🎓 知識

- 水温警告はエンジンストップスイッチを“○”(RUN)、メインスイッチを“ON”にすると点灯し数秒後に消灯するのが正常です。

警告灯点灯

水温警告点灯



水温表示点滅

メータの見かた、使いかた

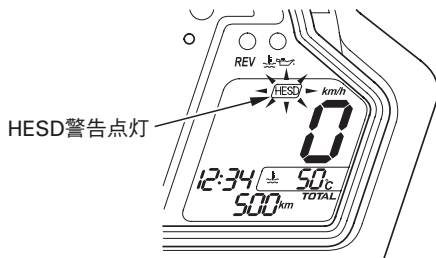
ホンダ・エレクトロニック・ステアリング・ダンパー
(HESD)警告

エンジンストップスイッチが“○”(RUN)、メ
インスイッチが“ON”のときHESDシステムに異常
があると点灯します。

HESD警告が点灯した場合は、高速走行を避け、た
だちにHonda販売店にご相談ください。

知識

- HESD警告灯はエンジンストップスイッチ
を“○”(RUN)、メインスイッチを“ON”に
すると点灯し数秒後に消灯するのが正常で
す。



〈CBR1000RR ABS〉

コンバインドABS警告灯

コンバインドABS警告灯は、メインスイッチを“ON”にすると点灯し、走行(車速約10 km/h以上)すると消えるのが正常です。

警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店にご相談ください。

- 運転中に点灯または点滅したとき
- メインスイッチを“ON”にしても点灯しないとき。

- 10km/h以上で走行しても消灯しないとき

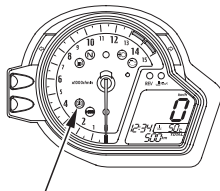
なお、この場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。前輪ブレーキレバーを握ったときは前輪にのみ、後輪ブレーキペダルを踏んだときは後輪にのみブレーキがかかります。(コンバインドABSとしての作動はしません)

知識

- 以下の条件のとき、コンバインドABS警告灯が点滅する場合があります。

この場合一度メインスイッチを“OFF”にし、再度メインスイッチを“ON”にすると警告灯が点灯し、10 km/h以上の速度で走行したあとに消灯すれば正常です。

- 走行中に1秒以上前輪が路面から離れたとき
- 停車状態からブレーキレバー／ペダルを操作しつづけたまま加速したとき
- メンテナンススタンドなどを使用して後輪を空転させたとき



コンバインドABS警告灯

メータの見かた、使いかた

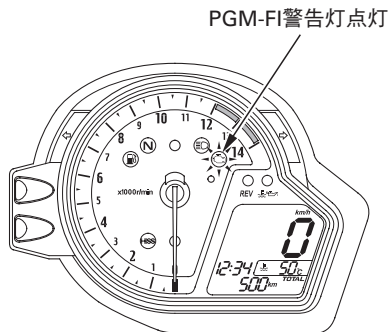
PGM-FI警告灯

エンジンストップスイッチが“○”(RUN)、メインスイッチが“ON”のときPGM-FIシステムに異常があると点灯します。

警告灯が点灯した場合は高速走行を避け、ただちにHonda販売店にご相談ください。

知識

- PGM-FI警告灯は、メインスイッチを“ON”にすると点灯し数秒後に消灯するのが正常です。



燃料残量警告灯

燃料タンク内のガソリンが少なくなると点灯します。燃料残量警告灯が点灯したときは、早めにガソリンを補給してください。

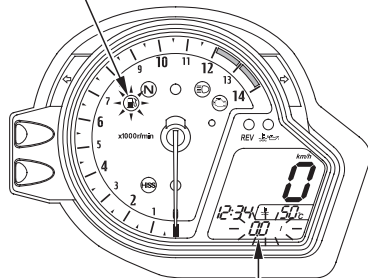
燃料残量警告灯が点灯したときの燃料有効残量：
約 3.5ℓ

警告灯が点灯すると、マルチファンクションディスプレイの下部の表示がリザーブ燃料消費量に切り替わります。(31ページ参照)

知識

- 燃料残量警告灯は、メインスイッチを“ON”にすると点灯し数秒後に消灯するのが正常です。

燃料残量警告灯点灯



リザーブ燃料消費量表示点滅

メータの見かた、使いかた

イモビライザーシステム(HISS)表示灯

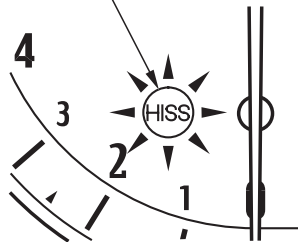
エンジンストップスイッチが“○” (RUN)の状態
でメインスイッチを“ON”にすると、イモビライザ
ーシステム (HISS) 表示灯が点灯し、数秒後に消灯
することでエンジンの始動が可能であることを示
します。

消灯しない場合、エンジンの始動はできません。

もし、消灯しない場合、メインスイッチを“OFF”に
し、キーを抜き、再度キーを差し込み、メインスイ
ッチを“ON”にしてください。それでも消灯しない
ときは、57～58 ページを確認してください。

メインスイッチを“OFF”にしたあと、24時間の間、
2秒間隔で点滅します。また、この点滅をしないよ
うにすることもできます(43 ページ参照)。

イモビライザーシステム(HISS)表示灯



イモビライザーシステム (HISS) 表示灯は、以下の操作を行うことで、“点滅する”または“点滅しない”を設定することができます。

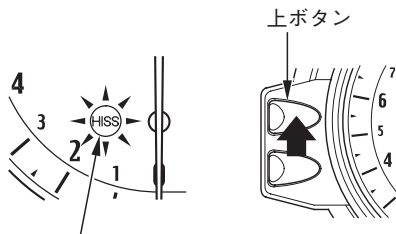
点滅機能の設定は、以下の操作を行うと、“点滅する”、“点滅しない”が交互に切換わります。

1. メインスイッチを“ON”にします。
2. 積算距離計が表示されている状態で、上ボタンを2秒以上押し続けます。“点滅する”に設定したときは、表示灯が約2秒点灯します。“点滅しない”に設定したときは、表示灯が約0.5秒点灯します。
3. メインスイッチを“OFF”にします。

イモビライザーシステム (HISS) については 56 ページを参照してください。

知識

- メインスイッチが“OFF”のとき、イモビライザーシステム (HISS) 表示灯が点滅していても、イモビライザーシステム (HISS) は作動しています。



イモビライザーシステム (HISS) 表示灯

メータの見かた、使いかた

方向指示器表示灯

方向指示器が点滅しているときに点滅します。非常駐車灯スイッチ(ハザードスイッチ)を使用しているときは、左右の表示灯が同時に点滅します。

知識

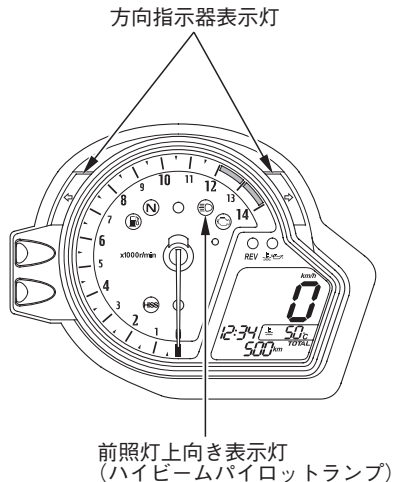
- 方向指示器表示灯は、メインスイッチを“ON”にすると点灯し数秒後に消灯するのが正常です。

前照灯上向き表示灯(ハイビームパイロットランプ)

照射角が上向きのときに点灯します。

知識

- 前照灯上向き表示灯は、メインスイッチを“ON”にすると点灯し数秒後に消灯するのが正常です。



ニュートラル表示灯

メインスイッチのキーが“ON”の位置にありチェンジがニュートラルの位置にあるとき点灯します。

REVインジケータ

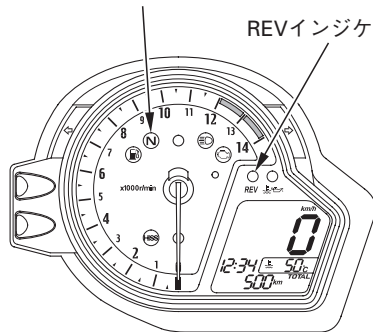
エンジン回転数がレッドゾーンに入ったとき、または設定したエンジン回転数に入ったとき、点灯／点滅します。

知識

- REVインジケータは、メインスイッチを“ON”にすると点灯し数秒後に消灯するのが正常です。

ニュートラル表示灯

REVインジケータ



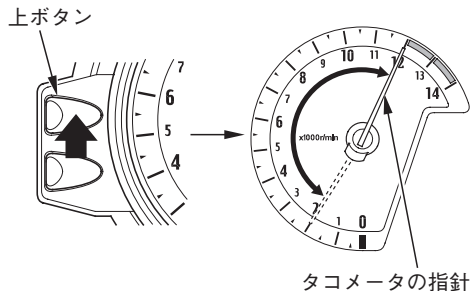
メータの見かた、使いかた

REVインジケータの設定

REVインジケータが点灯／点滅するエンジン回転数を2,000 rpm～12,000 rpmの間で任意に設定することができます。また、インジケータの点灯／点滅パターンを変えることができます。

《REVインジケータの点灯／点滅回転数および点灯／点滅パターンの設定のしかた》

1. 上ボタンを押しながらメインスイッチキーを“ON”の位置にします。(メータの初期表示終了まで上ボタンを押し続けます。タコメータの指針は現在設定されている回転数に動いて止まります。)
2. 上ボタンを1回押すごとに500 rpm指針が進みます。
12,000 rpmを越えると、指針は自動的に2,000 rpmに戻ります。
上ボタンを押し続けた場合、指針は進み続けます。



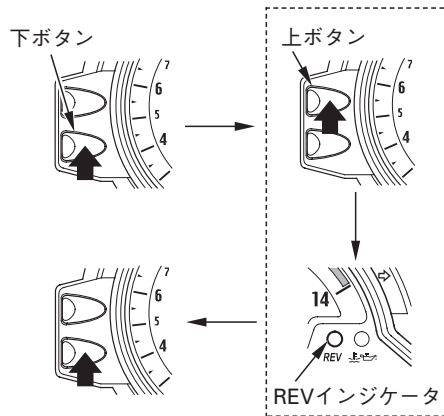
3. 点灯／点滅させたい回転数を決定後、下ボタンを押すと、その回転数が設定されます。次にインジケータの点灯／点滅パターンの設定モードに切り変わり、インジケータが点灯／点滅します。

4. 上ボタンを押すたびにインジケータの点灯／点滅パターンが切りかわります。(48ページ参照)

表示させたいインジケータの点灯／点滅パターンを決定後、下ボタンを押すと、そのインジケータの点灯／点滅パターンが設定され通常表示に戻ります。

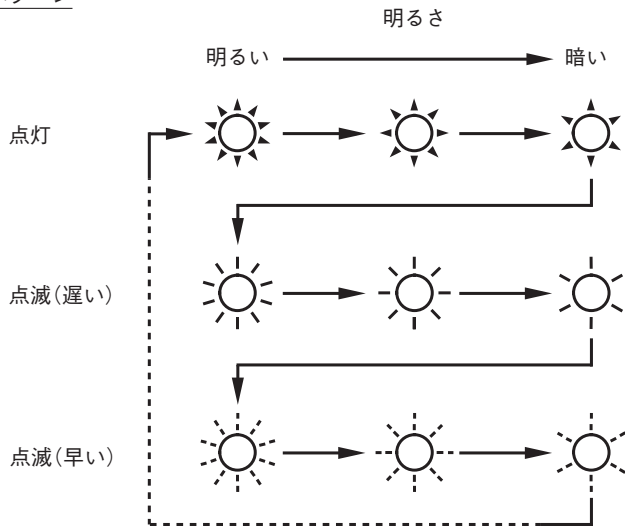
知識

- REVインジケータの設定時に、イグニッションキーを“OFF”にした場合、設定はイグニッションキーを“OFF”にする直前の状態になります。



メータの見かた、使いかた

点灯／点滅パターン



スイッチの使いかた

メインスイッチ

メインスイッチは電気回路の断続を行います。

キーの位置	作用	キーの脱着
O N	始動・昼夜間走行 ●前照灯(ヘッドライト)などが常時点灯する ●ホーン・方向指示器・制動灯(ストップランプ)などが使える	抜けない
OFF	停止 ●電気回路を遮断する ●非常駐車灯(ハザード)保持機能使用時は除く (55ページ参照)	抜ける
LOCK	ハンドルのロックができる ●電気回路を全部遮断する ●非常駐車灯(ハザード)保持機能使用時は除く (55ページ参照)	抜ける

走行中はメインスイッチのキーを操作しないでください。

メインスイッチのキーを“OFF”や“LOCK”の位置にすると電気系統は作動しません。走行中にメインスイッチのキーを操作すると思わぬ事故につながるおそれがありますので必ず停車してから操作してください。

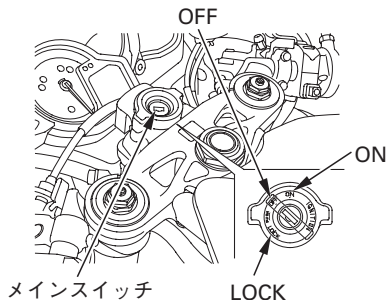
スイッチの使いかた

🏍️ アドバイス

- この車はメインスイッチを“ON”にすると前照灯(ヘッドライト)が常時点灯します。エンジンをかけずに“ON”の状態にしておくと、バッテリーあがりの原因となります。

🏠 知識

- 車を離れるときは、ハンドルロックをかけて必ずキーを抜いてお持ちください。



前照灯上下切換えスイッチ (ヘッドライト上下切換えスイッチ)

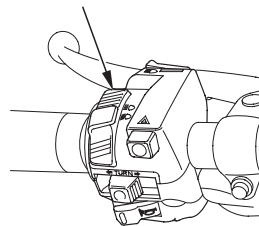
《前照灯(ヘッドライト)の上下切換え》

前照灯上下切換えスイッチを上下に動かして行います。

- ☰☐ ……前照灯(ヘッドライト)が上向き
- ☷☐ ……前照灯(ヘッドライト)が下向き

昼間は、下向き(ロービーム)に点灯しましょう。

前照灯上下切換えスイッチ (ヘッドライト上下切換えスイッチ)



エンジンストップスイッチ

エンジンストップスイッチは、転倒など非常の場合に、手もとですぐにエンジンを止めるために設けたものです。

通常は“○”(RUN)の位置にしておいてください。

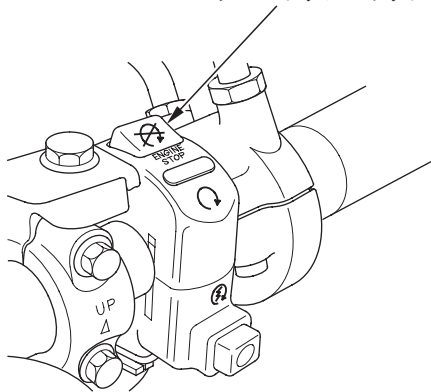
“⊗”(OFF)の位置ではエンジンはかかりません。

エンジンストップスイッチは非常の場合以外は使用しないでください。走行中にエンジンストップスイッチをRUN→OFF→RUNにすると、エンジン回転が不円滑となり、走行不安定の原因となります。またエンジンにも悪影響をおよぼすおそれがあります。

アドバイス

- 非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止した場合、忘れずにメインスイッチを“OFF”にしてください。“ON”のままにしておくと、バッテリーあがりの原因となります。

エンジンストップスイッチ



スイッチの使いかた

スタータスイッチ

スイッチを押している間、スタータモータが回転し、エンジンを始動させます。

🏍️ アドバイス

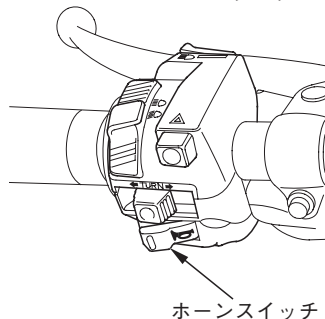
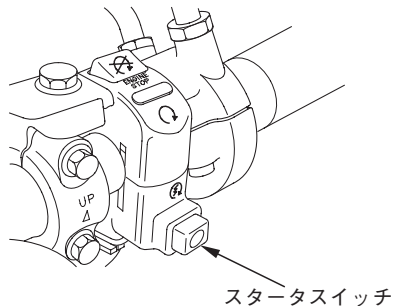
- スタータモータを連続して回転させないでください。消費電力が多いため、バッテリーがあがるおそれがあります。

🏠 知識

- スタータモータ作動時はヘッドライトが消灯します。

ホーンスイッチ

メインスイッチが“ON”のとき、ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。

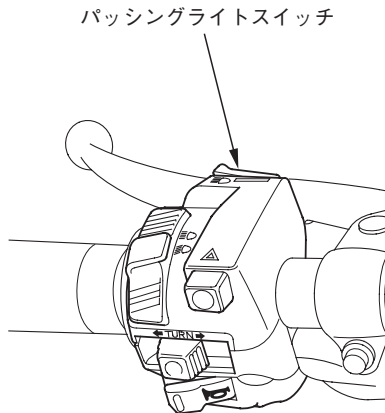


パッシングライトスイッチ

追越しのときに、自車の存在を知らせるためのものです。

《使いかた》

パッシングライトスイッチを押して行きます。
前照灯上下切換えスイッチが上向きときは作動しません。



スイッチの使いかた

方向指示器スイッチ

右左折する時や、進路変更する場合には方向指示器で合図します。

《使いかた》

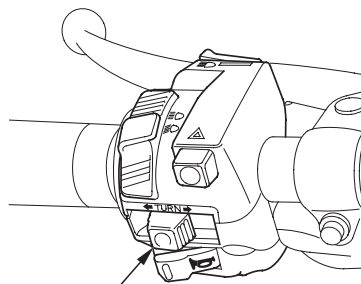
メインスイッチのキーを“ON”にしてスイッチを入れると、方向指示器が作動します。

解除は、方向指示器スイッチを押して行います。

- ⇒ ……右折
- ⇐ ……左折

知識

- 方向指示器スイッチは、自動的に解除しません。使用後は、必ず解除してください。つけたままにしておくと他の方に迷惑となります。
- 電球(バルブ)は、正規のワット数以外のものを使用すると、方向指示器が正常に作動しなくなります。必ず正規のワット数のものを使用してください。



方向指示器スイッチ

非常駐車灯スイッチ (ハザードスイッチ)

スイッチを入れると、すべての方向指示器のランプが点滅します。

故障等で、やむを得ず路上に駐車するときに使用します。非常時にのみ使用してください。

《使いかた》

メインスイッチのキーを“ON”にして非常駐車灯スイッチ(ハザードスイッチ)を押します。

解除は、非常駐車灯スイッチをもう一度押して行います。

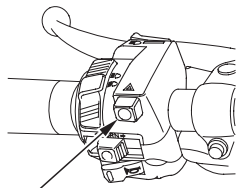
《非常駐車灯(ハザード)保持機能》

- 非常駐車灯スイッチ(ハザードスイッチ)を“ON”に維持し、メインスイッチを“ON”から“OFF”(ハンドルロック“LOCK”を含む)の位置へ替えても、非常駐車灯(ハザード)は点滅を継続します。

- 非常駐車灯(ハザード)保持機能を解除するには、非常駐車灯スイッチ(ハザードスイッチ)を“OFF”にします。
- メインスイッチが“OFF”(ハンドルロック“LOCK”含む)の状態でも、非常駐車灯スイッチ(ハザードスイッチ)を“ON”の位置へ押しても、非常駐車灯(ハザード)は点滅しません。

知識

- 完全充電のバッテリーでも約20分以上使用するとバッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。



非常駐車灯スイッチ
(ハザードスイッチ)

装備の使いかた

イモビライザーシステム (HISS)

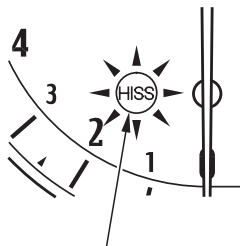
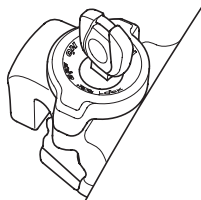
この車はイモビライザーシステム(HISS)を装備しています。

イモビライザーシステム(HISS)はメインスイッチを“ON”にしたとき、キーとメインスイッチにあるアンテナの間で通信を行い、登録されたキー以外ではエンジンを始動できないようにしたシステムです。

メインスイッチを“ON”にすると、イモビライザーシステム(HISS)表示灯が点灯し、数秒後に消灯することでエンジンの始動が可能であることを示します。

消灯しない場合、エンジンの始動はできません。

もし、消灯しない場合、メインスイッチを“OFF”にし、キーを抜き、再度キーを差し込み、メインスイッチを“ON”にしてください。それでも消灯しないときは、57~58ページを確認してください。



イモビライザーシステム(HISS)表示灯

イモビライザーシステム(HISS)表示灯が消灯しないとき。

イモビライザーシステム(HISS)表示灯が消灯しないときは以下を確認してください。

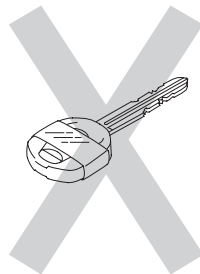
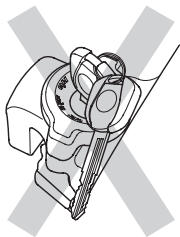
他のイモビライザーシステムのキー(予備のキーも含む)がメインスイッチの近くにある。

- 通信不良の場合があります。

メインスイッチのキーは、他のイモビライザーシステムのキー(予備のキーも含む)と分けて使用してください。

メインスイッチのキーにシール等を貼っている。

- 通信不良の場合があります。
金属シール等は、はがしてください。



装備の使いかた

登録された専用のキーを使用していない。

- 登録された専用のキーを使用しないと、イモビライザーシステム(HISS)表示灯は消灯しません。登録された専用のキーを使用してください。

壊れたキーを使用している。

- 59～60 ページを確認してください。
壊れたキーを使用した場合、イモビライザーシステム(HISS)表示灯は消灯しません。
別の登録された専用のキーを使用してください。

以上のこと以外で、イモビライザーシステム(HISS)表示灯が消灯しない場合はHonda販売店にご相談ください。

メインスイッチのキー

メインスイッチのキーにはイモビライザーシステム (HISS) の電子部品が内蔵されています。取扱いには次のことをお守りください。

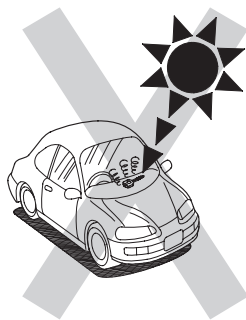
キーを無理に曲げたり、強い衝撃を与えたりしないでください。

- 電子部品の破損の原因となります。



長時間、直射日光にさらしたり、高温下で放置したりしないでください。

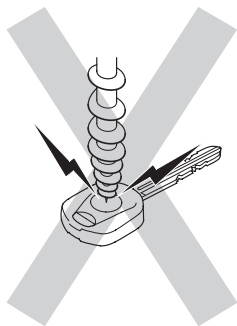
- 電子部品のデータ異常の原因となります。



装備の使いかた

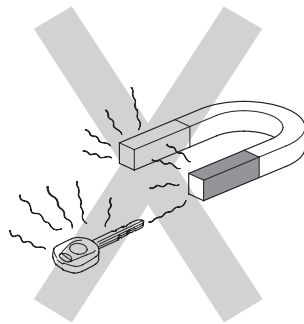
削ったり、穴を開けたりしないでください。

- 電子部品の破損の原因となります。



強い磁気を帯びた場所に置かないでください。

- 電子部品のデータ異常の原因となります。



メインスイッチのキーを紛失しないようにしてください。

- メインスイッチのキーをすべて紛失した場合、PGM-FI / IGNユニットの交換が必要になります。

PGM-FI / IGNユニットの交換を避けるため、予備のキーを作成することをおすすめします。

予備のキーの作成については、専用のキーおよびイモビライザーシステム(HISS)の再登録が必要になりますので、お買い上げのHonda販売店へご相談ください。

装備の使いかた

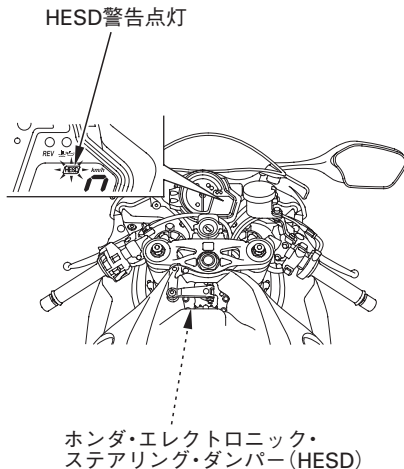
ホンダ・エレクトロニック・ステアリング・ダンパー (HESD)

この車は、電子制御式ステアリングダンパーを装備しています。

ホンダ・エレクトロニック・ステアリング・ダンパー (HESD) は車速や加速度によってダンパーの特性を制御します。

低速走行時は低い減衰力特性を、高速走行時は高い減衰力特性を与えます。

HESD 警告が点灯した場合は、高速走行を避け、ただちにHonda販売店にご相談ください。



ハンドルロック

盗難予防のため、駐車するときは必ずハンドルロックをかけましょう。

チェーンロックやU字ロック等のご使用もおすすめします。

《かけかた》

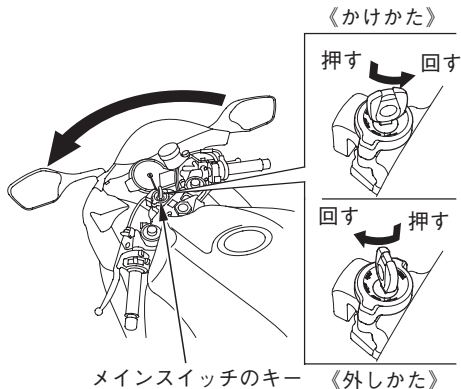
1. ハンドルを左にいっぱいに切ります。
2. メインスイッチにキーを差し込みます。
3. キーを押し込みながら、“LOCK”の位置まで回します。
ロックがかかりにくい場合は、多少ハンドルを左右に動かしてください。
4. キーを抜きます。

《外しかた》

1. メインスイッチにキーを差し込みます。
2. キーを押し込みながら、“OFF”の位置まで回します。

知識

- 交通のじゃまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。
- ハンドルが確実にロックされているか、ハンドルを軽く左右に動かして確認してください。



装備の使いかた

シート

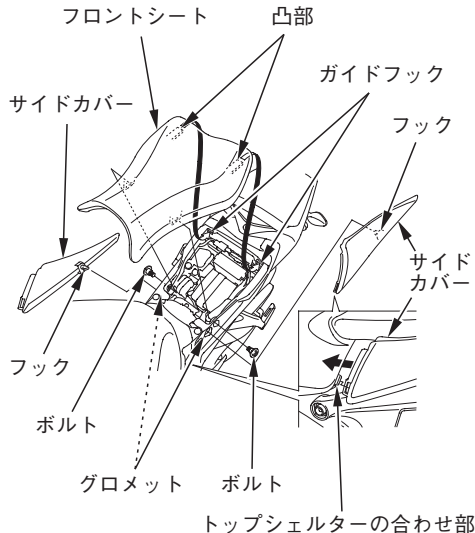
フロントシート

《取外し》

1. サイドカバーを手前に引き、左右のサイドカバーを取外します。
2. ボルトを取外します。
3. シートを前方にずらしながら持ち上げて取外します。

《取付け》

1. フレームのガイドフックにシートの凸部を差し込みます。
2. シートをボルトでしっかりと締付けます。
3. サイドカバーをトップシェルターの合わせ部にセットした後に、サイドカバー裏側のフックをグロメットに差し込み、サイドカバーを取付けます。



リヤシート

《取外し》

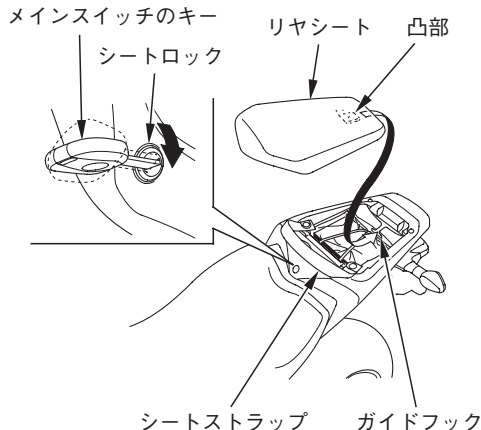
1. シートストラップを前方にずらします。
2. メインスイッチのキーをシートロックに差し込み右に回すと、シート前部が軽く持ち上がりロックが解除されます。
3. シートを前方へずらしながら持ち上げて取外します。

《取付け》

1. リヤシートの凸部をガイドフックにセットします。
2. シート前部を押し下げてロックします。
シートを軽く持ち上げてロックがかかっていることを確認してください。
3. キーを抜きます。
4. シートストラップをもとの位置に戻します。

知識

- メインスイッチのキーを置き忘れた状態でシートを取付けると、自動的にロックされ、キーを取り出せなくなりますのでご注意ください。



装備の使いかた

ヘルメットホルダ

ヘルメットホルダは、駐車時のみに使用するものです。

走行時に使用すると、ヘルメットが運転を妨げたり、車体に損傷を与えることがあります。また、ヘルメットに損傷を与え保護機能を低下させます。

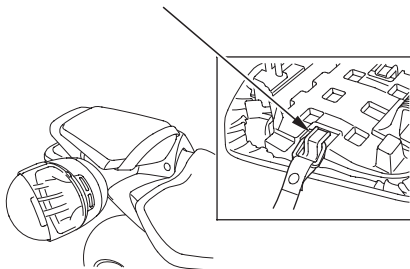
《使いかた》

1. リヤシートを外します。(65ページ参照)
2. シート裏のヘルメットホルダにヘルメットの金具をかけます。
3. リヤシートを取付けます。

知識

- メインスイッチのキーを置き忘れた状態でシートを取付けると、自動的にロックされ、キーを取り出せなくなりますのでご注意ください。

ヘルメットホルダ



書類入れ

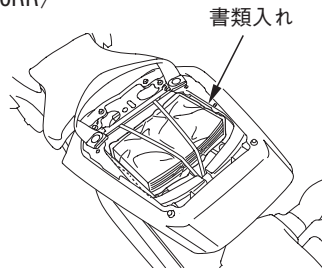
リヤシートを外すと書類入れがあります。
取扱説明書やメンテナンスノートなどは、ビニール袋に入れ、ここに格納してください。

- リヤシートの取外し、取付けは 65 ページを参照してください。

知識

- 洗車時、シートの下から強く水をかけないでください。内部に水が入り書類等がぬれることがあります。

〈CBR1000RR〉



〈CBR1000RR ABS〉



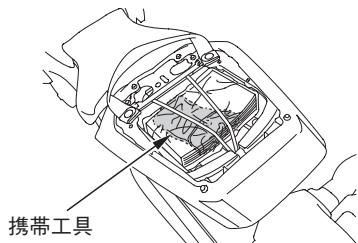
装備の使いかた

携帯工具スペース

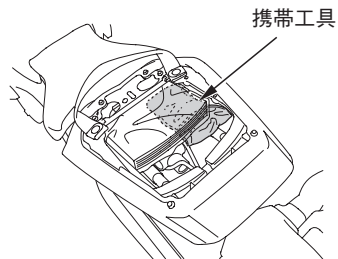
携帯工具スペースは、リヤシート下にあります。
携帯工具は、工具スペースに格納してください。

- リヤシートの取外し、取付けは 65 ページを参照してください。

〈CBR1000RR〉



〈CBR1000RR ABS〉



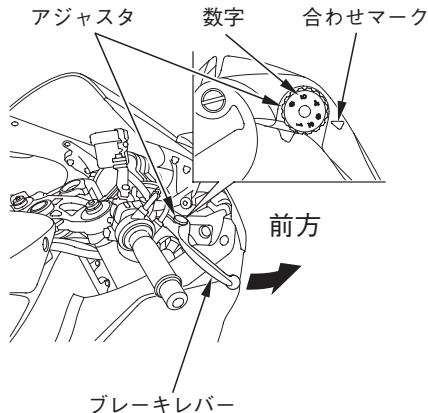
ブレーキレバーの距離調整

この車には、ブレーキレバーとハンドルグリップの間隔を調整できるアジャスタが装備されています。

《調整のしかた》

ブレーキレバーを前方に押しながら、アジャスタの数字と合わせマークを合わせます。

レバーとグリップの距離は、“1”の位置が最大、“6”の位置が最小です。



装備の使いかた

フロントクッションの調整

体重や路面の状態などに応じて調整してください。

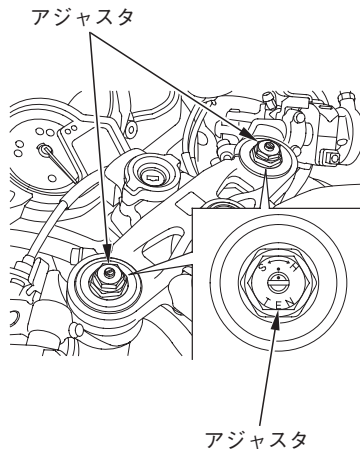
《スプリングの調整》

調整は、スパナを使い、アジャスタを回して行います。

スプリングの強さは、アジャスタを右回り(時計回り)に回すと強くなり、左回り(反時計回り)に回すと弱くなります。

標準は、アジャスタを左回りに軽く止まるまで回した後、右回りに6回転戻します。

アジャスタは、無理に回さないでください。
左右の強さは、必ず同じにしてください。



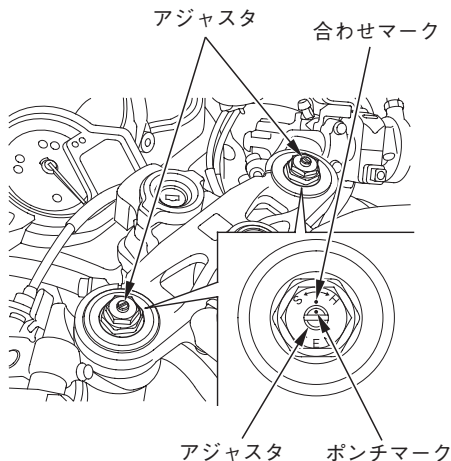
《伸び側減衰力の調整》

調整は、⊖マイナスドライバを使いアジャスタを回して行います。

減衰力の強さは、アジャスタをH側(右回り)に回すと強くなり、S側(左回り)に回すと弱くなります。

標準は、アジャスタをH側に止まるまで回した後、S側に約2-1/2回転(CBR1000RR)、または約2-1/4回転(CBR1000RR ABS)戻しポンチマークが合わせマークに合う位置です。

アジャスタは、無理に回さないでください。
左右の強さは、必ず同じにしてください。



装備の使いかた

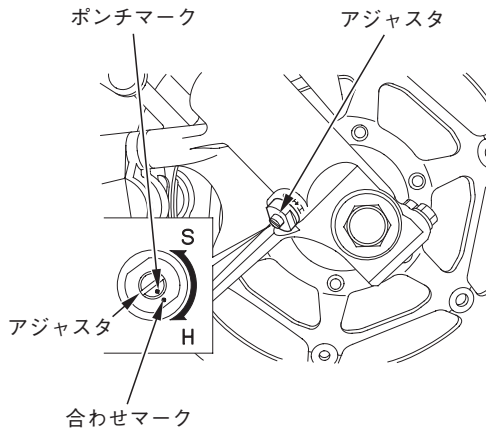
《縮み側減衰力の調整》

調整は、⊖マイナスドライバを使いアジャスタを回して行います。

減衰力の強さは、アジャスタをH側(右回り)に回すと強くなり、S側(左回り)に回すと弱くなります。

標準は、アジャスタをH側に止まるまで回した後、S側に約2-1/4回転戻しポンチマークが合わせマークに合う位置です。

アジャスタは、無理に回さないでください。
左右の強さは、必ず同じにしてください。



リヤクッションの調整

体重や路面の状態に応じて調整してください。

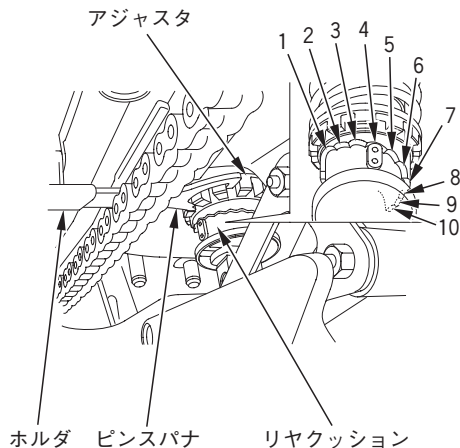
《スプリングの調整》

調整は、ピンスパナとホルダを使いアジャスタを回して行います。

アジャスタの回転順序は、1→2→3→4→5→6→7→8→9→10または10→9→8→7→6→5→4→3→2→1で行います。

アジャスタを直接1から10または10から1に無理に回すとリヤクッションが破損します。

“4”が標準の強さで、1～3は弱く、5～10と強くなります。



装備の使いかた

《伸び側減衰力の調整》

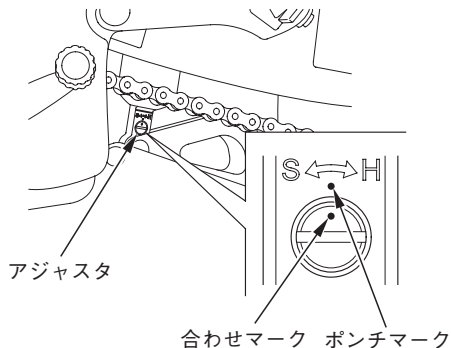
リヤクッション本体下部にアジャスタがあり、車体左側より調整します。

調整は⊖マイナスドライバを使いアジャスタを回して行います。

減衰力の強さは、アジャスタをH側(右回り)に回すと強くなり、S側(左回り)に回すと弱くなります。

標準は、アジャスタをH側に止まるまで回した後、S側に約2-1/4回転戻しポンチマークが合わせマークに合う位置です。

アジャスタは、無理に回さないでください。



《縮み側減衰力の調整》

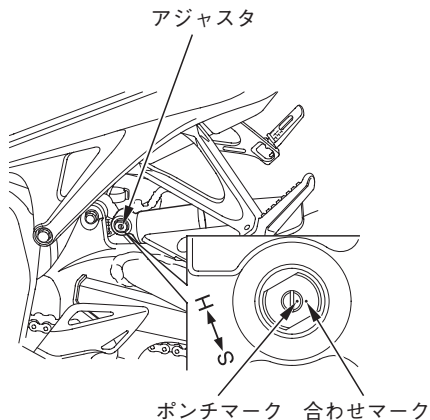
リヤクッション本体上部にアジャスタがあり、車体左側より調整します。

調整は⊖マイナスドライバを使いアジャスタを回して行います。

減衰力の強さは、アジャスタをH側(右回り)に回すと強くなり、S側(左回り)に回すと弱くなります。

標準は、アジャスタをH側に止まるまで回した後、S側に約 2-1/2 回転戻しポンチマークが合わせマークに合う位置です。

アジャスタは、無理に回さないでください。



装備の使いかた

U字ロック格納場所

リヤシートの下にU字ロックを格納することができます。

《格納のしかた》

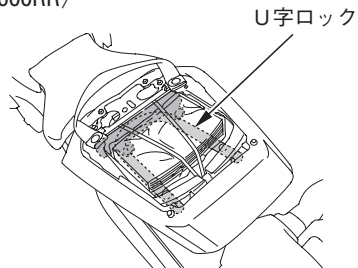
1. リヤシートを取外します。(65ページ参照)
2. U字ロックを右図のように格納します。

- U字ロックはオプションです。

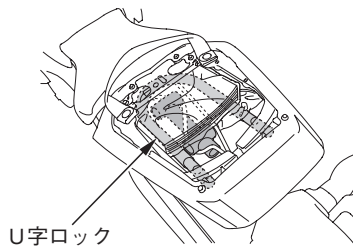
🏠 知識

- U字ロック格納場所には、U字ロックの種類や形状、大きさなどにより一部格納できない場合があります。

〈CBR1000RR〉



〈CBR1000RR ABS〉



ロアフェアリング

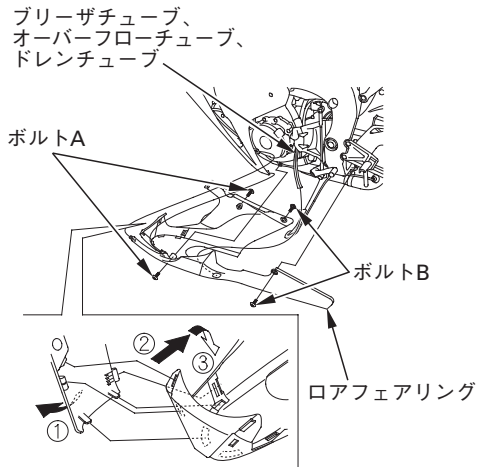
エンジン停止直後は、エンジン本体、エキゾーストパイプ、マフラなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

《取外し》

1. ボルトA、ボルトBを外します。
2. ドレンチューブ、ブリーザチューブ、オーバーフローチューブをロアフェアリングから引抜き、ロアフェアリングを取外します。

《取付け》

- 取付けは、取外しの逆手順で行います。
- ドレンチューブ、ブリーザチューブ、オーバーフローチューブを元の位置に戻します。



燃料の補給

《使用燃料》

無鉛プレミアムガソリン(無鉛ハイオク)

アドバイス

- 必ず無鉛ガソリンを補給してください。補給するときは、無鉛ガソリンであることを確認してください。
- 有鉛ガソリンを補給すると、触媒装置などを損ないます。
- 高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油や粗悪ガソリン(長期間保管したガソリン)などを補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響を与えます。

ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。



警告

ガソリンは、燃えやすくヤケドを負ったり、爆発して重大な傷害に至る可能性があります。

ガソリンを取扱う場合は、

- エンジンを止めてください。また、裸火、火花、熱源などの火元を遠ざけてください。
- 燃料補給は、必ず屋外で行ってください。
- こぼれたガソリンは、すぐに拭き取ってください。

身体に帯電した静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火し、ヤケドを負う可能性があります。

ガソリンを補給するときは、

- 燃料タンクキャップを開ける前に車体や給油機などの金属部分に触れて身体の静電気を除去してください。
- 給油作業は静電気を除去した人のみで行なってください。

 知識

- 無鉛プレミアムガソリンが入手できない場合には、無鉛レギュラーガソリンをお使いになることもできますが、この場合エンジン性能を十分に発揮できません。

燃料の補給

《補給のしかた》

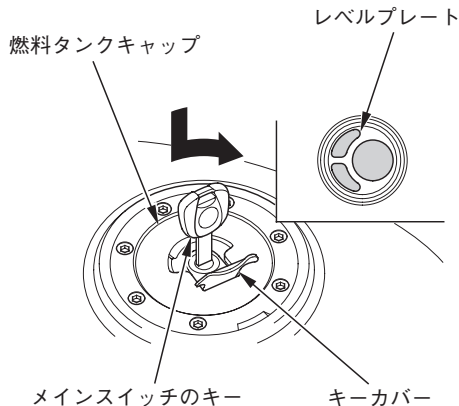
1. キーカバーを開け、メインスイッチのキーを差し込み右に回すと燃料タンクキャップが開けられます。
2. ガソリンを注入口の下側にあるレベルプレート下端まで入れます。

ガソリンを注入口のレベルプレート下端以上に入れると、燃料タンクのブリーザチューブからガソリンがにじみ出ることがあります。

3. 燃料タンクキャップを手で確実に押してメインスイッチのキーを抜いてください。

燃料タンクキャップがロックされないと、メインスイッチのキーは抜けません。

4. キーカバーを閉じます。



正しい運転操作

エンジンのかけかた

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。エンジンは、風通しの良い場所でかけてください。

エンジン始動は、82 ページの「始動手順」に従って行ってください。

アドバイス

- スタータスイッチを押して5秒以内でエンジンがかからないときは、一度メインスイッチを“OFF”に戻して10秒以上待ってから再始動してください。
これはバッテリー電圧を回復させるためです。
- 無用の空ぶかしや長時間の暖機運転はしないでください。ガソリンの無駄使いになるばかりでなく、エンジン等に悪影響を与えます。
- 万一転倒した場合は、一旦メインスイッチを“OFF”にしてください。再度、走行を行う際は、各部の損傷状態や、走行に支障が無いかを十分に確認してください。

知識

- この車には、サイドスタンドを出したままチェンジを入れると、自動的にエンジンが停止するイグニッションカットオフ式サイドスタンドを採用しています。スタートする前に、必ずサイドスタンドを格納してください。
- エンジンをかけるときには、スロットルを全開にしないでください。
スロットルを全開にしてエンジンを始動しようとする、PGM-FIユニットが燃料の供給を停止します。
- この車は、セーフティスタータ機構を採用していますので、チェンジが入った状態では、エンジンは始動しません。但しこの状態でも、クラッチレバーを握ればエンジンは始動します。

正しい運転操作

《始動手順》

この車にはオートチョークが装備されていますのでエンジンが冷えているとき、暖まっているときにかかわらず以下の始動手順に従ってください。

1. エンジンストップスイッチが“○”(RUN)になっていることを確認します。
2. メインスイッチを“ON”にします。
3. チェンジをニュートラルにします。(ニュートラル表示灯で確認してください。)
4. スロットルグリップを閉じ、スタータスイッチを押します。
5. エンジンがかかったら、サイドスタンドが確実に格納してあることを確認してからスタートしてください。

- エンジンがかからないときは、145 ページ記載の要領で確認してください。

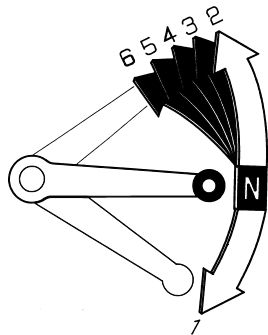
知識

- この車には、左右 2 個の冷却ファンが装備されています。それぞれの冷却ファンの作動水温が異なるため、片側の冷却ファンが作動していない場合でも異常ではありません。
- 規定水温に達しなくても停止時にエンジン回転を上げ続けるとクーリングファンが回る場合がありますが異常ではありません。
- この車は、転倒したとき、自動的にエンジンを停止するシステムが装備されています。エンジンを再始動するときは、システムの作動を解除するためにメインスイッチを一度“OFF”にしてください。

チェンジのしかた

チェンジは、右図のような6段リターン式です。

- 変速は、スロットルグリップを一旦戻して、クラッチレバーを完全に握ってから行います。
- チェンジペダルの操作は、つま先で軽く行い、ペダルにコツンと足ごたえのあるまで確実に操作してください。無理をすると、チェンジ機構を痛める原因となります。



正しい運転操作

走りかた

- 走行前に、サイドスタンドは完全に納まっているか確認してください。
- 車のスピードに応じてギヤを切換えることが必要です。右表は、その速度範囲を示したものです。
- 不必要な急加減速をつつしんで走ることが、燃料の節約と車の寿命をのばします。

アドバイス

- 走行中に異音や異常を感じたときは、ただちにHonda販売店で調べましょう。

知識

- 発進は、できるだけ静かに行いましょう。
- 法定速度を守って走りましょう。

	速度範囲
1 速	0 ～ 125 km/h
2 速	30 ～ 170 km/h
3 速	40 ～ 180 km/h
4 速	45 ～ 180 km/h
5 速	50 ～ 180 km/h
6 速	55 ～ 180 km/h

《慣らし運転》

適切な慣らし運転を行うと、その後のお車の性能を良い状態に保つことができます。

この車は乗り始めてから500 kmを走行するまでは急発進、急加速を避け控えめな運転をしてください。

《シフトダウンのしかた》

追い越しするときなど、強力な加速が必要なときは、シフトダウンをすると加速力が得られます。高い速度でのシフトダウンは、尻振りなどの原因やエンジンの回転が上がり過ぎて、エンジン、ミッションに悪影響を与えるだけでなく、最悪の場合エンジン、ミッションがこわれます。右表の速度内で行ってください。

	シフトダウン可能限界速度
6速→5速	180km/h 以下
5速→4速	180km/h 以下
4速→3速	160km/h 以下
3速→2速	130km/h 以下
2速→1速	70km/h 以下

正しい運転操作

ブレーキの使いかた

- ブレーキは、前輪ブレーキと後輪ブレーキを同時に使しましょう。制動力を効果的に得るためには、前輪ブレーキと後輪ブレーキを同時に使う必要があります。
- 不必要な急ブレーキは避けましょう。急激なブレーキ操作は、タイヤをロックさせ車体の安定性を損なうおそれがあります。
- 雨天走行や路面が濡れている場合、タイヤがロックしやすく、制動距離が長くなります。スピードを落として、余裕をもったブレーキ操作をしてください。
- 連続的なブレーキ操作は、ブレーキ部の温度上昇の原因となり、ブレーキの効きが悪くなるおそれがありますので避けてください。

- 水たまりを走行した後や雨天走行時には、ブレーキの効き具合が悪くなる場合があります。水たまりを走行した後などは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意し、低速で走行しながらブレーキを軽く作動させて、ブレーキの効き具合を確認してください。もし、ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキのしめりを乾かしてください。

《エンジンプレーキ》

スロットルグリップをもどすとエンジンプレーキがききます。さらにエンジンプレーキを必要とするときは5速、4速……とシフトダウンを行ってください。

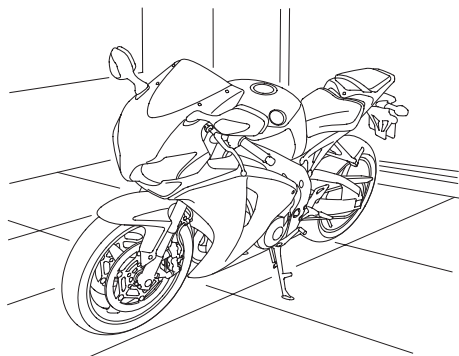
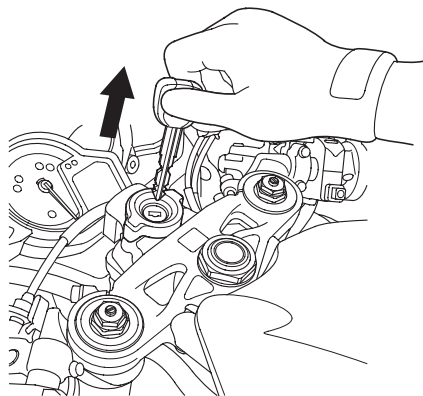
急激なシフトダウンは、尻振りなどやエンジン、ミッションに悪影響を与える原因となります。

85 ページの表にしたがって行ってください。

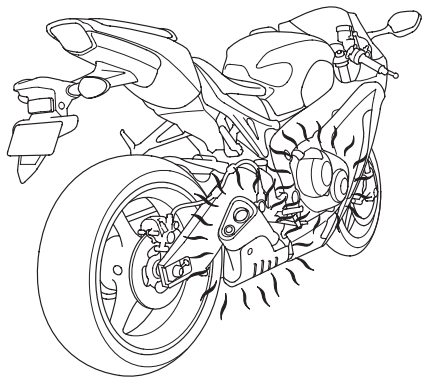
長い下り坂、急な下り坂などでは、断続的なブレーキ操作とエンジンプレーキを併用してください。

メンテナンスを安全に行うために

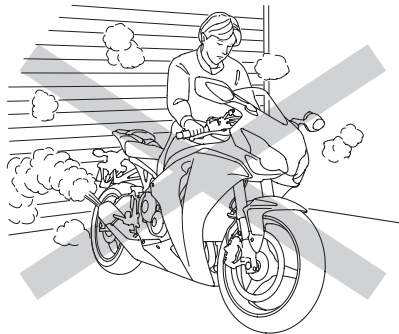
- 整備はエンジンを停止しキーを抜いた状態で行ってください。
- 場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。



- エンジン停止直後のメンテナンスは、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

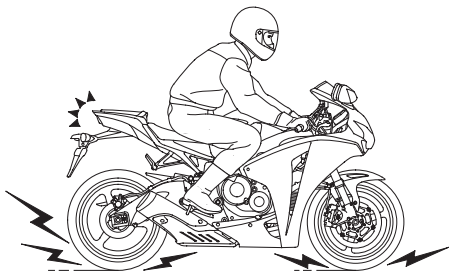


- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。



メンテナンスを安全に行うために

- 走行して点検する必要があるときは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意して行ってください。
- メンテナンスに工具を必要とするときは、適切な工具を使用してください。



日常点検、定期点検、簡単なメンテナンス

お車をご使用の方の安全と車を快適にご使用いただくために、日常のお車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行っていただく日常点検と、1年毎(12か月毎)、2年毎(24か月毎)の定期点検整備が義務づけられています。
安全快適にお乗りいただくために、必ず実施してください。



点検整備の方法を正しく行わないことや、不適当な整備、未修理は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

- 点検整備は、取扱説明書・メンテナンスノートに記載された点検方法・要領を守り、必ず実施してください。
- 異状箇所は乗車前に修理してください。

各点検、メンテナンス等については、以下のページをご覧ください。

1か月目点検について	92
交換部品について	92
日常点検	93
メンテナンス部品配置図	94
定期点検	96
簡単なメンテナンス	97
ブレーキ	98
タイヤ	102
ドライブチェーン	106
エンジンオイル	108
冷却水	113
クラッチ	116
バッテリー	120
ヒューズ	124
エアクリーナ	128
ケーブル・ワイヤ類	129

日常点検、定期点検、簡単なメンテナンス

1 か月目点検について

新車から1 か月目(または、1,000 km時)は、特に初期の点検整備が車の寿命に影響することを重視し、点検を無料でお取扱いたします。

お買いあげのHonda販売店で行ってください。

他の販売店にてお受けになると有料となる場合があります。

また、オイル代、消耗部品代および交換工賃等は実費をいただきます。

詳細については、別冊「メンテナンスノート」をご覧ください。

小型自動車[250 cm³ (cc)を超えるもの]は、1 回目を登録日から3 年後に、2 回目以降は、2 年毎に国で定める継続検査を受けなければ使用できません。期間満了前に必ずお受けください。

交換部品について

点検整備の結果、部品の交換が必要となった場合は、あなたのお車に最適な“Honda純正部品”をご使用ください。

純正部品は、厳しい検査を実施し、Honda車に適合するように作られています。

お求めは、Honda販売店にご相談ください。

純正部品には、次のマークがついています。

純正部品マーク

HONDA

GENUINE PARTS

日常点検

日常点検

安全快適にご使用いただくために法令にしたがって、日常のお車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検です。

点検時期の目安としては、長距離走行や洗車時、給油時などに実施し、その結果をメンテナンスレコードに記入してください。

この車に適用される点検項目は、右記「日常点検項目」です。

下線のついている項目については、「簡単なメンテナンス」に説明があります。97 ページ以後を参照してください。

また、点検項目の部位を次ページの「メンテナンス部品配置図」で示します。参照してください。

点検方法・要領は、別冊「メンテナンスノート」をご覧ください。

日常点検項目

- ブレーキ
 - ・ レバーの遊び(油圧式)
 - ・ ペダルの遊び(油圧式)
 - ・ ブレーキの効き具合
 - ・ ブレーキ液の量
- タイヤ
 - ・ 空気圧
 - ・ 亀裂、損傷
 - ・ 異状な摩耗
 - ・ 溝の深さ
- エンジン
 - ・ 冷却水の量
 - ・ エンジンオイルの量
 - ・ かかり具合、異音
 - ・ 低速、加速の状態
- 灯火装置及び方向指示器
- 運行において異状が認められた箇所
- ドライブチェーンの緩み(Honda指定)

日常点検

メンテナンス部品配置図

点検の方法・要領は、取扱説明書の「簡単なメンテナンス」および別冊「メンテナンスノート」をご覧ください。

後輪ブレーキリザーバタンク

ラジエーターリザーバタンク

メインスイッチ

前輪ブレーキリザーバタンク

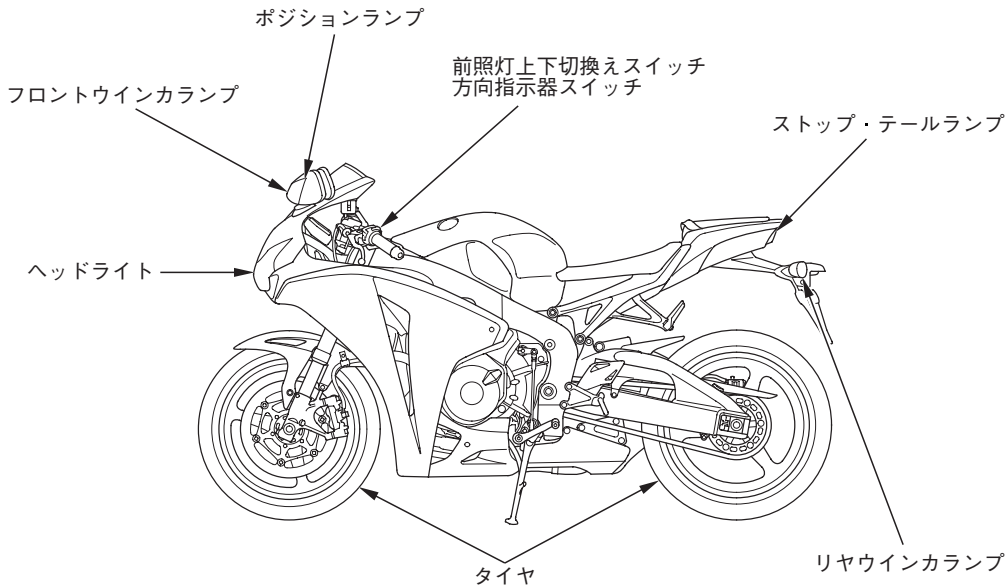
前輪ブレーキレバー

後輪ブレーキペダル

オイルフィルターキャップ

オイルレベルゲージ

《イラストはCBR1000RR》



《イラストはCBR1000RR》

定期点検

定期点検

定期点検は、道路運送車両法で定められた1年毎(12か月毎)、2年毎(24か月毎)の点検と、使い始めてから1か月目(または、1,000 km時)に行う点検があります。

また、これらの点検項目のほかにHondaが指定する点検整備項目もあります。

安全快適にお車をご使用いただくために、点検整備を必ず実施してください。

点検整備の実施は、お客様の責任です。これは、ご自身で行う場合も、他に依頼する場合も同様です。

- ご自身で実施できない場合は、Honda販売店にご相談ください。
- ご自身で実施する場合は、安全のためご自分の知識と技量に合わせた範囲内で行ってください。難しいと思われる内容については、Honda販売店にご相談ください。

点検整備のデータは、150ページのサービスデータを参照してください。

点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入し、大切に保存、携行してください。

簡単なメンテナンス

簡単なメンテナンス

ここでは、通常行われることが多い簡単なメンテナンス(点検整備)について説明しています。

ご自身の知識、技量に合わせた範囲内で、適切な工具を使用し、メンテナンスを行ってください。
安全のため、技量や作業に必要な工具をお持ちでない場合は、Honda販売店にご相談ください。

簡単なメンテナンス

ブレーキ

前輪ブレーキ

《ブレーキ液の量の点検》

平坦地でスタンドを立て、ハンドルを動かし、リザーバタンクキャップ上面を水平にします。液面が上限(UPPER)と下限(LOWER)の間にあることを確認してください。

液面が下限以下の場合はブレーキパッドの摩耗が考えられます。パッドの摩耗の点検を行ってください。(次ページ参照)

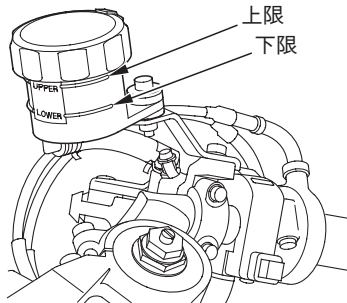
ブレーキパッドが摩耗していない場合は、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。異状箇所の修理やブレーキ液の補充はHonda販売店にご相談ください。

指定ブレーキ液

Honda純正ブレーキフルード DOT 4

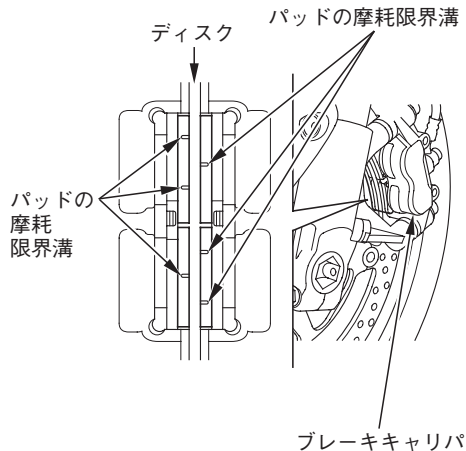
🛠️ アドバイス

- 銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。
銘柄の異なるブレーキ液を使用すると、ブレーキ液が変質したりブレーキ装置の故障の原因となることがあります。



《ブレーキパッドの摩耗の点検》

左右のブレーキキャリパを同時に点検します。
ブレーキキャリパの前側からのぞいて、パッドの
摩耗限界溝がなくなったら、パッドの摩耗限界で
す。
摩耗限界に達したら、ブレーキパッドを左右同時
に交換してください。
ブレーキパッドの交換は、Honda販売店にご相談
ください。



簡単なメンテナンス

後輪ブレーキ

《ブレーキ液の量の点検》

平坦地で車体を垂直にして、ブレーキ液面がレベルラインに平行な状態にします。液面が上限(UPPER)と下限(LOWER)の間にあることを確認してください。

液面が下限以下の場合にはブレーキパッドの摩耗が考えられます。パッドの摩耗の点検を行ってください。(次ページ参照)

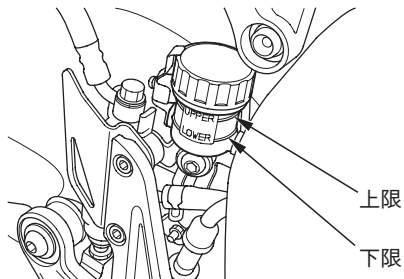
ブレーキパッドが摩耗していない場合は、ブレーキシステムの液漏れが考えられます。異状箇所の修理やブレーキ液の補充はHonda販売店にご相談ください。

指定ブレーキ液

Honda純正ブレーキフルード DOT 4

🔧 アドバイス

- 銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。
銘柄の異なるブレーキ液を使用すると、ブレーキ液が変質したりブレーキ装置の故障の原因となることがあります。

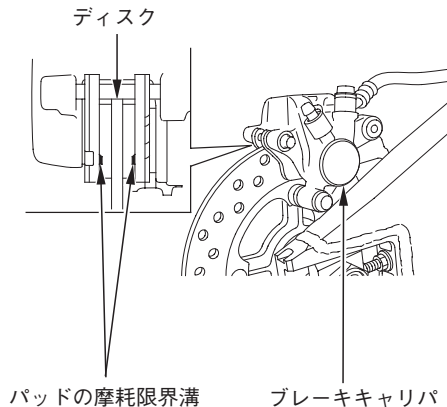


《ブレーキパッドの摩耗の点検》

ブレーキキャリパの後側からのぞいて、パッドの摩耗限界溝がブレーキディスクの側面に達したら、パッドの摩耗限界です。

摩耗限界に達したら、ブレーキパッドを左右同時に交換してください。

ブレーキパッドの交換は、Honda販売店にご相談ください。



簡単なメンテナンス

タイヤ

車を安全に運転するには、タイヤを良い状態に保つことが必要です。

常に適正な空気圧を保ってください。

また、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは、使用せず交換してください。



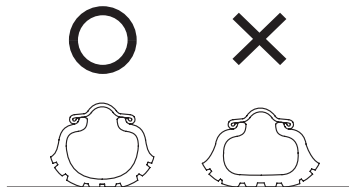
過度にすり減ったタイヤの使用や、不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

取扱説明書に記載されたタイヤの空気圧を守り、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは交換してください。

《空気圧の点検》

タイヤの接地部のたわみ状態を見て、空気圧が適当であるかを点検します。

タイヤ接地部のたわみ状態が異状な場合は、タイヤが冷えている状態でタイヤゲージを使用し、適正な空気圧に調整してください。



タイヤの空気圧は徐々に低下します。また、タイヤによっては空気圧不足が見た目ではわかりづらいものもあるため、少なくとも一カ月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。

走行後のタイヤが温まっている状態ではタイヤの空気圧は高くなることがありますので、必ず冷えた状態で調整してください。

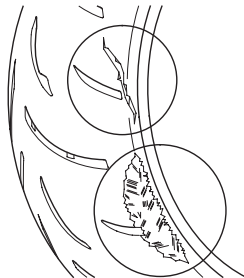
タイヤの空気圧

1人乗車時	前輪	250 kPa (2.50 kgf/cm ²)
	後輪	290 kPa (2.90 kgf/cm ²)
2人乗車時	前輪	250 kPa (2.50 kgf/cm ²)
	後輪	290 kPa (2.90 kgf/cm ²)

《亀裂と損傷の点検》

タイヤの全周に亀裂や損傷及び釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検します。

道路の縁石等にタイヤ側面を接触させたり、大きな凹みや突起物を乗り越した時は、必ず点検してください。

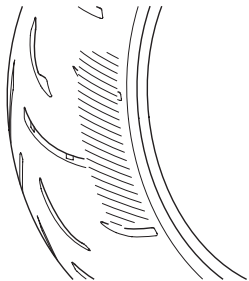


簡単なメンテナンス

《異状な摩耗の点検》

タイヤの接地面が異状に摩耗していないかを点検します。

タイヤの状態が異状な場合は、Honda販売店にご相談ください。



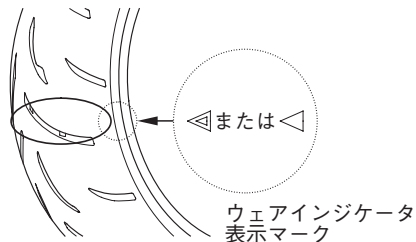
《溝の深さの点検》

溝の深さに不足がないかをウェアインジケータ（スリップサイン）により確認します。

ウェアインジケータがあらわれたときは、ただちに交換してください。

また、安全な走行のためトレッド中央部の溝の深さが次の数値になったときは交換してください。

前輪 1.5 mm 後輪 2.0 mm



《交換タイヤの選択について》

タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用してください。

指定以外のタイヤは、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがありますので使用しないでください。

タイヤの交換は、Honda販売店にご相談ください。



指定以外のタイヤを取付けると、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがあります。そのことが原因で転倒事故などを起こし、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

タイヤ交換時には、必ず取扱説明書に記載された指定タイヤを取付けてください。

指定タイヤ

前 輪	サイズ	120/70ZR17M/C (58W)
	タイプ	BRIDGESTONE BT015F RADIAL F チューブレス DUNLOP Qualifier PTK チューブレス
後 輪	サイズ	190/50ZR17M/C (73W)
	タイプ	BRIDGESTONE BT015R RADIAL F チューブレス DUNLOP Qualifier NK チューブレス

簡単なメンテナンス

ドライブチェーン

(Honda指定日常点検整備および1年点検整備項目)

ドライブチェーンのメンテナンスは、エンジンを停止した状態で行ってください。

《緩み(たるみ)の点検》

スタンドを立て、前後プロケットの中央を手で上下に動かし、チェーンの緩み(たるみ)が規定の範囲内にあることをスケールなどで確認します。

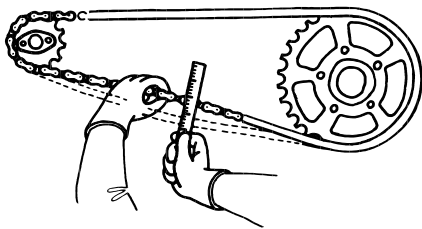
ドライブチェーンの緩み：25-35 mm

緩みが規定の範囲を超えている場合は、調整してください。

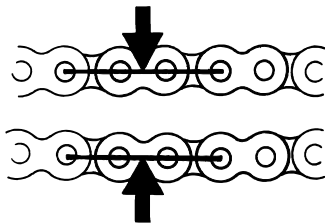
ドライブチェーンの緩みが **50 mm** 以上の場合、絶対に走行しないでください。

また、車体を垂直にし、車体を前後に動かしてチェーンが滑らかに回転することを確認します。チェーンの回転が滑らかでない場合や、異音が出る場合は異常です。

調整などの場合はHonda販売店にご相談ください。



ドライブチェーンの緩み(たるみ)



《給油と清掃》

車体を前後に動かしてはサイドスタンドを立て、チェーンやスプロケットに付着した泥、汚れをブラシなどで落とします。このチェーンは、ゴムのシールを使用しているのでスチーム洗浄は行わないでください。

汚れを落とした後、給油を行います。オイルがチェーン各部によく行きわたるようにチェーンローラの両側に給油してください。

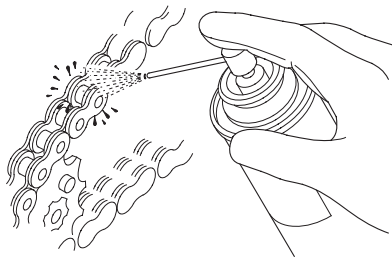
チェーンにオイルをつけ過ぎると、衣服や車に飛び散り、汚しますのでオイルをつけ過ぎないように注意してください。

指定オイル

“Honda純正チェーンオイル”または
ギヤオイル(#80～#90)

アドバイス

- Honda純正チェーンオイル以外の溶剤入り潤滑油(チェーンスプレー等)は、チェーンの寿命を縮めるものがあるので使用しないでください。



簡単なメンテナンス

エンジンオイル

エンジンオイルは走行距離や時間の経過とともに劣化したり減っていきます。

そのため、定期交換時期に行う交換だけではなく日常点検によるオイル点検・補給が必要です。汚れたオイルや古くなったオイルは、エンジンに悪影響を与えますので、早めに交換してください。

エンジン停止直後のメンテナンスは、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

《オイル量の点検》

1. 平坦地でエンジンを3～5分間アイドリングさせます。
2. エンジン停止2～3分後にオイルレベルゲージを外します。
3. 布等でオイルレベルゲージについたオイルを拭きます。
4. 車体を垂直にして、オイルレベルゲージをねじ込まず差し込みます。

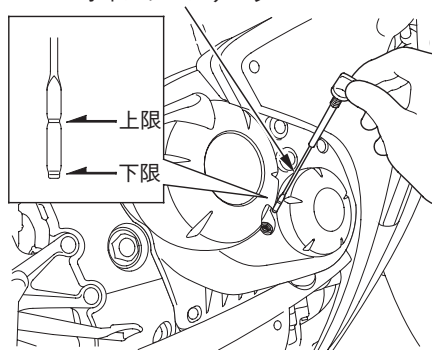
5. オイルがオイルレベルゲージの上限と下限の間にあることを確認します。

オイル量が下限に近かったら、上限まで補給します。

エンジンオイルの補給は、次ページ参照。

6. オイルレベルゲージを確実に取付けます。

オイルレベルゲージ



《オイルの補給》

推奨オイル

Honda純正オイル(4サイクル二輪車用)

	JASO T 903規格	SAE規格	API分類
ウルトラG1	MA	10W-30	SL級

相当品をご使用の場合

オイル容器の表示を確認し、下記のすべての規格を満たしているオイルをお選びください。

- JASO T 903 規格(二輪車用オイル規格):MA
- SAE規格:外気温に応じ111ページの表から選択
- API分類:SG、SH、SJ、SL 級相当

相当品がすべての規格を満たしている場合でも特性が異なりこの車に適合しない場合があります。

アドバイス

- クラッチは、エンジンオイルに浸されています。過度に摩擦を低減するエンジンオイルは、クラッチの滑りや始動不良などを発生させます。また、エンジン性能や寿命に悪影響を与える場合があります。
- 必要以上に摩擦低減剤を含むエンジンオイルは、使用しないでください。
- 必要以上に摩擦を低減する添加物は、加えないでください。
- この車には、アシストスリッパークラッチシステムが装着されています。アシストスリッパークラッチは、走行時のシフトダウンによる急激なエンジンプレーキを緩和することで、リヤタイヤのロックを防ぎ、クラッチ操作を容易にするシステムです。MA分類以外のエンジンオイルを使用すると、アシストスリッパークラッチシステムの故障の原因になります。

簡単なメンテナンス

🏍️ アドバイス

- 銘柄やグレードの異なるオイルを混用しないでください。また、低品質オイルや高品質オイルでもこの車に適合しないオイルは、使用しないでください。
オイルが変質したり、適合しないため、この車本来の性能が発揮できないばかりでなく、エンジンの故障や損傷の原因となります。
- API規格マークの入っている相当品を使用する場合、エナジーコンサービングを取得したオイルには摩擦係数の低いものがあり推奨しません。



推奨しません



推奨します

🎓 知識

- JASO T 903規格とは4サイクルエンジンオイルの性能を分類する規格です。なお、規格に適合し届け出されたオイルの容器には、次の表示があります。



上段: オイル販売会社の整理番号

下段: 性能分類の表示
MA性能であることを示しています

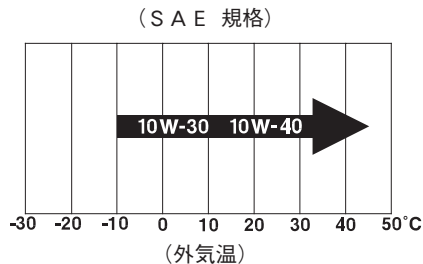
JASO T 903 適合品

本MA性能の品質保証者

本田技研工業株式会社

外気温と粘度との関係

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを
下表にもとづきお使いください。



交換時期

初回:1,000 kmまたは1か月

以後:10,000 kmまたは1年ごと

エンジンオイルの交換は、Honda販売店にご相談
ください。

簡単なメンテナンス

補給のしかた

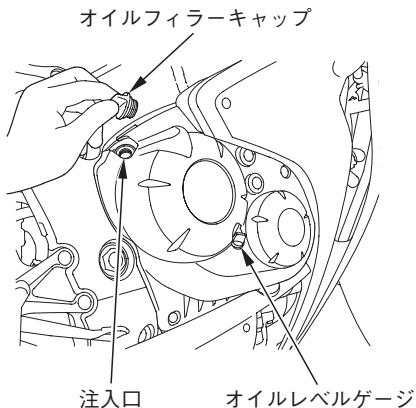
1. 平坦地でエンジンを3～5分間アイドリングさせます。
2. エンジン停止2～3分後にオイルレベルゲージを外します。
3. 布等でオイルレベルゲージに付いたオイルを拭きます。
4. 車体を垂直にして、オイルレベルゲージでオイル量を確認しながら、注入口よりオイルをオイルレベルゲージの上限まで補給します。

補給するときは、オイル注入口からごみなどが入らないようにしてください。また、オイルをこぼしたときは完全に拭き取ってください。

5. オイルレベルゲージを確実に取付けます。

アドバイス

- オイルは規定量より多くても少なくても、エンジンに悪影響を与えます。



冷却水

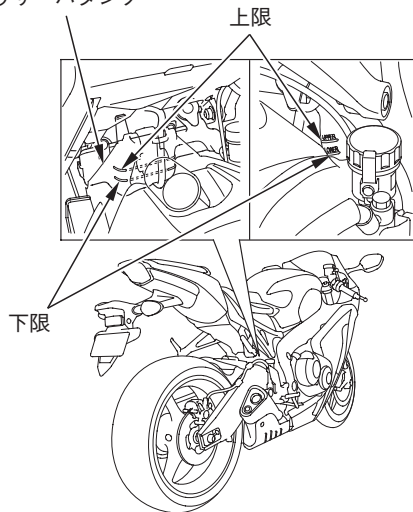
《冷却水量の点検》

1. 平坦地で車体を垂直にします。
2. 冷却水がリザーバタンクの上限と下限の間にあることを確認します。
水量が下限に近かったら、上限まで補給します。
冷却水の補給は、次ページを参照してください。

冷却水の減り具合が著しいときは、ラジエータ本体、キャップ、ホースなどからの水漏れが考えられます。
また、リザーバタンクに冷却水がない場合も異常です。

Honda販売店にご相談ください。

リザーバタンク



簡単なメンテナンス

《冷却水の補給》

補給はリザーバタンクのキャップから行い、通常はラジエータキャップを外さないでください。



エンジンが熱いときにラジエータキャップを外すと、冷却水が噴き出し、重いヤケドを負います。

ラジエータキャップを外す前には、必ずエンジン、ラジエータが冷えていることを確認してください。

アドバイス

- 指定以外のラジエータ液や不適當な水を使うとサビなどの原因となります。

冷却水指定液

Honda純正ウルトララジエータ液

指定液の濃度を上水道(軟水)で下記濃度に薄めてお使いください。

指定濃度:30%(寒冷地は50%)

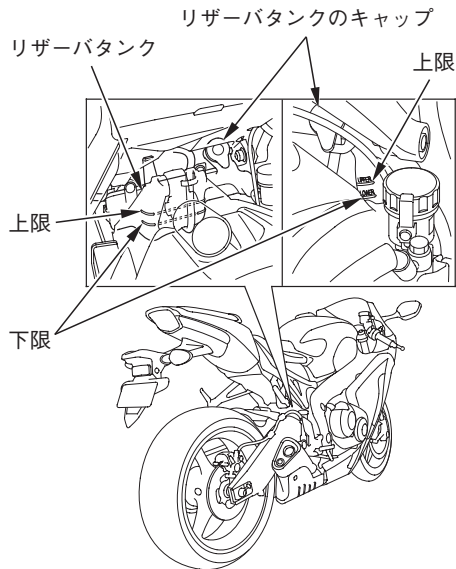
濃度による不凍温度は、

30%の場合 -16°C まで

50%の場合 -37°C まで

補給のしかた

1. リザーバタンクのキャップを外します。
2. 平坦地で車体を垂直にし、リザーバタンクの上限まで冷却水を補給します。
3. キャップを取付けます。



簡単なメンテナンス

クラッチ

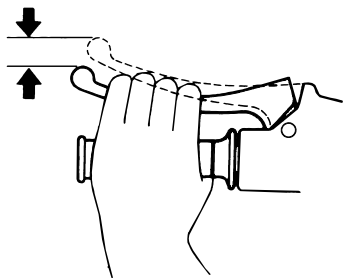
《クラッチレバーの遊びの点検》

抵抗を感じるまで、手でクラッチレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあることをスケールなどで確認します。

クラッチレバーの遊び：10-20 mm

規定の範囲を超えている場合は、調整してください。

調整のしかたは、次ページを参照してください。



調整のしかた

クラッチケーブルのクラッチレバー側またはクラッチ側のアジャスタにより遊びを調整します。

《微調整》

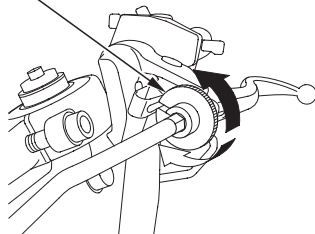
微調整はクラッチレバー側のアジャスタを回して行います。

クラッチレバー側で調整しきれない場合は、クラッチ側で主調整してください。

主調整のしかたは、次ページを参照してください。

《微調整》

アジャスタ

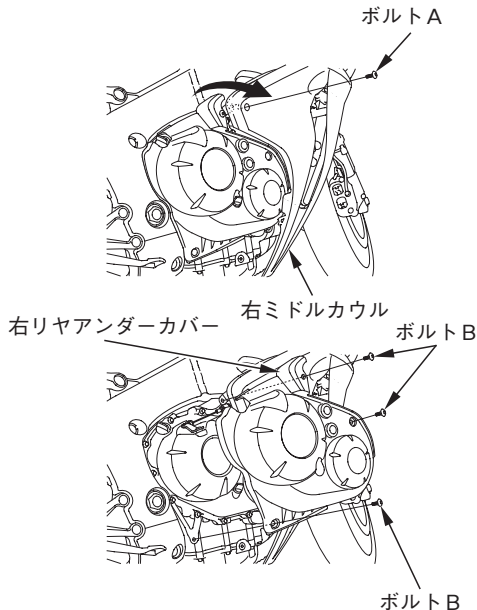


簡単なメンテナンス

《主調整》

エンジン停止直後のメンテナンスは、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

1. ロアフェアリングを取外します。(77ページ参照)
2. ボルトAを取外します。
右ミドルカウルを外側に引いて保持します。
3. ボルトBを取外します。
右リアアンダーカバーを取外します。



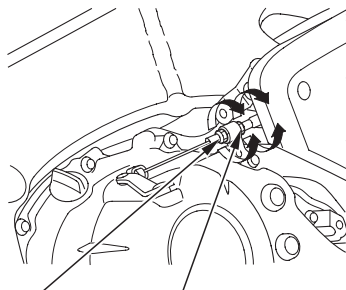
4. 調整は、ロックナットをゆるめアジャスタを回して行います。

調整後、ロックナットを締付けます。

締付け後、クラッチレバーの遊びを確認してください。

5. 右リアアンダーカバー、右ミドルカウル、ロアフェアリングを取付けます。

また、調整後エンジンをかけ、チェンジ操作がスムーズであるか、エンストまたは飛び出し等がないかも確認してください。



ロックナット アジャスタ

簡単なメンテナンス

バッテリー

この車は、メンテナンスフリータイプのバッテリーを使用しています。バッテリー液の点検、補給は必要ありません。

バッテリーのターミナル部に汚れや腐食がある場合のみ清掃してください。

バッテリーの取扱い

- バッテリー取扱い時には、ショートによる火花やたばこ等の火気に十分注意してください。
- バッテリー液は、希硫酸ですので目や皮膚に付着しないよう十分注意してください。

アドバイス

- 密閉式バッテリーですので、液口キャップは絶対に取外さないでください。
バッテリーの充電時も液口キャップを取外す必要はありません。

警告

バッテリーには、希硫酸が電解液として含まれています。希硫酸は腐食性が強く、目や皮膚に付着すると重いヤケドを負います。

- バッテリーの近くで作業する時は、保護メガネと保護服を着用してください。
- バッテリーを、子供の手の届く所に置かないでください。

万一の場合の応急処置

- 電解液が目につ着したとき
ー コップなどに入れた水で、15分以上洗浄してください。加圧された水での洗浄は、目を痛めるおそれがあります。
- 電解液が皮膚につ着したとき
ー 電解液のついた服を脱ぎ、皮膚を多量の水で洗浄してください。
- 電解液を飲み込んだとき
ー 水、または牛乳を飲んでください。
応急処置後、直ちに医師の診察を受けてください。

《バッテリーターミナル部の清掃》

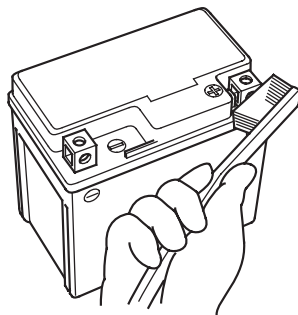
清掃のしかた

バッテリーを取外します。(次ページ参照)

- ターミナル部が腐食して白い粉が付いている場合は、ぬるま湯を注いで拭きます。
- ターミナル部の腐食が著しいものは、ワイヤブラシまたはサンドペーパーで磨きます。

清掃後、バッテリーを取付けます。

バッテリーを交換する場合は、必ず同型式のメンテナンスフリーバッテリーをご使用ください。



簡単なメンテナンス

《バッテリーの取外し、取付け》 〈CBR1000RR〉

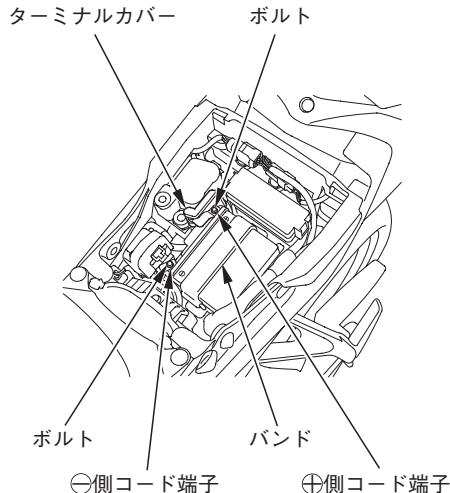
取外し

1. フロントシートを取外します。(64 ページ参照)
2. バンドを外します。
3. ⊖側コード端子のボルトを外し、⊖側コードを外します。
4. ターミナルカバーをめくり、⊕側コード端子のボルトを外して、⊕側コードを外します。
5. バッテリーを取出します。

取付け

- 取外しの逆手順でバッテリーを取付けます。

バッテリーコードは、必ず先に⊕側より取付けてください。
また、ターミナル部にゆるみが生じないように確実にボルト／ナットを締付けてください。



〈CBR1000RR ABS〉

取外し

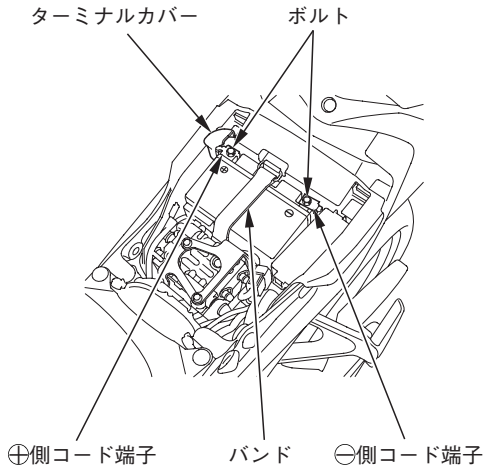
1. フロントシートを取外します。(64 ページ参照)
2. バンドを外します。
3. ⊖側コード端子のボルトを外し、⊖側コードを外します。
4. ターミナルカバーをめくり、⊕側コード端子のボルトを外して、⊕側コードを外します。
5. バッテリーを取出します。

取付け

- 取外しの逆手順でバッテリーを取付けます。

バッテリーコードは、必ず先に⊕側より取付けてください。

また、ターミナル部にゆるみが生じないように確実にボルト／ナットを締付けてください。



簡単なメンテナンス

ヒューズ

《ヒューズの点検、交換》

メインスイッチを切り、ヒューズが切れていないことを確認します。

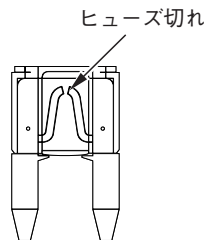
ヒューズが切れている場合は、指定されている容量のヒューズと交換します。

指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱、焼損の原因になるので絶対に使用しないでください。

交換してもすぐにヒューズが切れる場合はヒューズの劣化以外の原因が考えられます。原因を調べて、直してから新品と交換しましょう。

アドバイス

- 電装品類(ライト、計器など)を取付けるときは車種毎に決められている「Honda アクセサリー」をご使用ください。それ以外のものを使用するとヒューズが切れたり、バッテリーあがりをおこすことがあります。



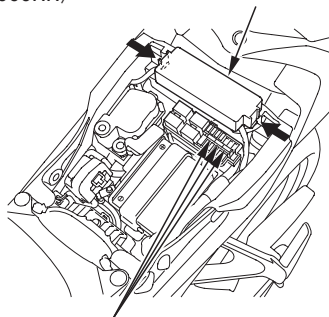
ヒューズボックス内のヒューズ

1. フロントシートを取外します。(64ページ参照)
2. ヒューズボックスカバーを取外します。
3. 故障状況から、交換すべきヒューズをヒューズボックスの表示に従い確認します。
スペアヒューズは、ヒューズボックス内にあります。

4. ヒューズボックスカバーを取付けます。
5. フロントシートを取付けます。

〈CBR1000RR〉

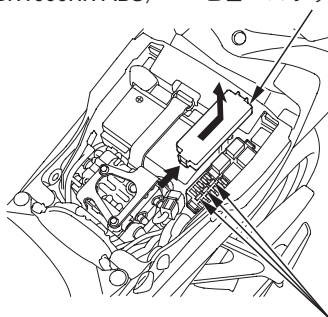
ヒューズボックスカバー



スペアヒューズ

〈CBR1000RR ABS〉

ヒューズボックスカバー



スペアヒューズ

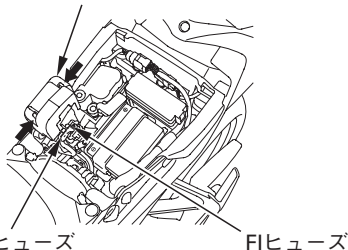
簡単なメンテナンス

メインヒューズ、FIヒューズ

〈CBR1000RR〉

1. フロントシートを外します。
(64 ページ参照)
2. スタータマグネチックスイッチのカバーを外します。
3. メインヒューズ及びFIヒューズを引き抜き、確認します。
スペアヒューズは、ヒューズボックス内にあります。(125 ページ参照)
4. カバーを閉め、フロントシートを取付けます。

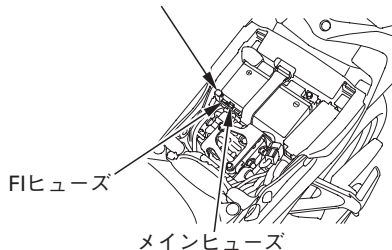
スタータマグネチックスイッチカバー



〈CBR1000RR ABS〉

1. フロントシートを外します。
(64 ページ参照)
2. メインヒューズボックスのカバーを開けます。
3. メインヒューズ及びFIヒューズを引き抜き、確認します。
スペアヒューズは、ヒューズボックス内にあります。(125 ページ参照)
4. カバーを閉め、フロントシートを取付けます。

メインヒューズボックスカバー

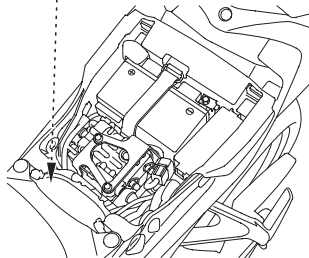


〈CBR1000RR ABS〉

ABSモータヒューズ

ABSモータヒューズの点検・交換は、Honda販売店
にご相談ください。

ABSモータヒューズ



簡単なメンテナンス

エアクリーナ

《エアクリーナエレメントの点検》

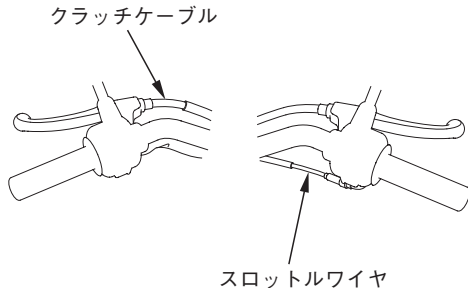
この車には、ろ紙式のエアクリーナエレメントが
装備されており点検が必要です。

エアクリーナエレメントの点検・交換は、Honda販
売店にご相談ください。

ケーブル・ワイヤ類

《ケーブル・ワイヤ類の点検》

クラッチレバー、スロットルグリップを作動させ、スムーズに動くか、作動が異状に重くないか、クラッチレバー、スロットルグリップから手を放したときにレバーやグリップがスムーズに戻るかを点検してください。また、ケーブル・ワイヤの外表部に損傷がないかを点検してください。異状を感じた場合はHonda販売店にご相談ください。



車のお手入れ

お車を定期的に清掃することは、品質や性能を維持するために大切な作業です。

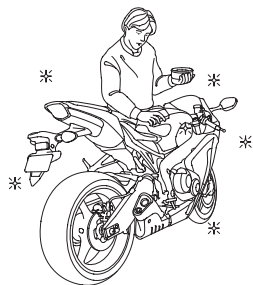
普段見逃しがちな異常の発見にもつながります。

また、海水や路面凍結防止剤などに含まれる塩分は、車体のサビを促進します。

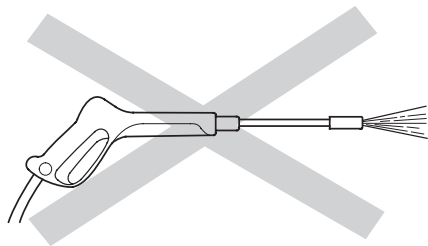
海岸付近や凍結防止剤を散布した路面を走行した後は必ず洗車してください。

《洗車のしかた》

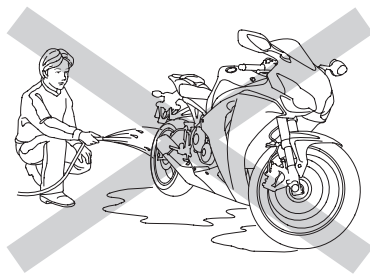
1. 水を流しながら柔らかい布やスポンジで汚れを落としてください。
汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤を使用し、十分な水で洗剤を洗い流してください。
2. 柔らかい布で拭きあげてください。車体を乾燥させた後、ドライブチェーン、ブレーキレバーやクラッチレバー、スタンドの取付け部へ注油し、その後、車体の腐食を防ぐため、ワックスがけを行ってください。



- 洗車は、エンジンが冷えているときに行ってください。
- 高圧洗車機などのような車体に高い水圧がかかる洗車は避けてください。
特に可動部や電装部品等にかかると、作動不良や故障の原因となることがあります。



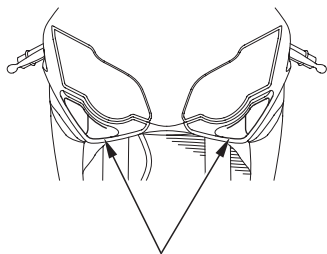
- 洗車時、マフラに水を入れしないでください。マフラ内部に水がたまると始動不良やサビの発生などの原因となることがあります。
- 洗車直後などにヘッドライト内部がくもることがあります。この場合、ヘッドライトを点灯することでくもりは徐々に消えていきます。ヘッドライトの点灯は、エンジンをかけながら行ってください。



車のお手入れ

- 洗車時、ブレーキの制動部分に水をかけないようにしてください。水がかかるとブレーキの効き具合が悪くなる場合があります。
洗車後は、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意し、低速で走行しながらブレーキを軽く作動させて、ブレーキの効き具合を確認してください。もし、ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキのしめりを乾かしてください。
- 洗車時、リヤシートの下から強く水をかけないでください。内部に水が入り書類等がぬれる場合があります。
- ワックスやケミカル類を使用するときは、ボディが目立たないところでくもりやキズ、色むら等が生じないか確認してからご使用ください。また、ワックス等で強く磨くと塗膜が薄くなったり、色むらが生じますのでご注意ください。
- ブレーキディスクやパッドにワックス、オイル等の油脂類が付着しないよう注意してください。ブレーキが効かなくなり、事故の原因になる場合があります。

-
- 洗車時、エアクリナーのダクトに直接水をかけないでください。
スロットルボディやエアクリナーに水が入り、始動不良などの原因になります。



エアクリナーのダクト

車のお手入れ

アルミ部品の取扱い

この車のホイール、フレームはアルミニウム合金を使用しています。

アルミ部品は、塩分などの汚れを嫌います。また、他の金属部品と異なり、傷がつきやすくなっています。取扱いについては必ず次のことをご守りください。

《アルミホイール》

- 砂入り石鹼や硬いブラシは、傷をつけますので使用しないでください。
- 縁石への乗り上げやすり当てはさけてください。

《アルミフレーム》

- 砂入り石鹼や硬いブラシは、傷をつけますので使用しないでください。

つや消し塗装の取扱い

つや消し塗装部品は、一般的な塗装と取扱いが異なります。

つや消し塗装を維持するため必ず次のことをご守りください。

《お手入れ》

- 汚れを落とす場合は、中性洗剤を使ってやわらかい布かスポンジで汚れを洗い落としてください。
洗浄後は十分に水洗いして乾いた布で水分をふき取ってください。

《取り扱い》

- 塗装面にコンパウンドやコンパウンド入りワックスを使用すると、つや消し感が無くなったり、色むらが生じるおそれがありますので、使用しないでください。
- ご不明な点がございましたら、Honda販売店にご相談ください。

フェアリングの取扱い

フェアリング、ウインドスクリーンは傷がつきやすくなっています。取扱いについては必ず次のことをお守りください。

- フェアリング、ウインドスクリーンは傷がつきやすいので、清掃するときは多量の水を使って、やわらかい布やスポンジで汚れを落としてください。汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤を使用し、十分な水で洗剤を洗い流してください。
- ガソリン、ブレーキ液または洗浄液等の化学物質がメータ、ウインドスクリーン、フェアリング等の樹脂部品およびヘッドライトにかかると、亀裂などが発生しますので、絶対にかからないようにしてください。
- ウインドスクリーンに貼付されているコーションラベルは、はがさないでください。

エキゾーストパイプ・マフラの取扱い

エンジン停止直後は、エンジン本体、エキゾーストパイプ、マフラなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

エキゾーストパイプ・マフラはステンレス鋼を使用していますので、油脂等の汚れが付着したままで、エンジンを始動すると焼けムラが起ります。

《お手入れ》

- 汚れが付着した場合は、ステンレス用台所洗剤を使って、やわらかい布かスポンジで汚れを洗い落としてください。洗浄後は、十分に水洗いして乾いた布で水分をふき取ってください。
- 焼けムラをとる場合は、市販の細目のコンパウンドで磨いた後、汚れが付着した場合と同じ要領で汚れを洗い落としてください。
- エキゾーストパイプ・マフラがつや消し塗装されている場合は、ステンレス用台所洗剤や市販のコンパウンドを使用しないでください。塗装面の清掃には中性洗剤を使用してください。もし、塗装処理されているか判らない場合は、Honda販売店にご相談ください。

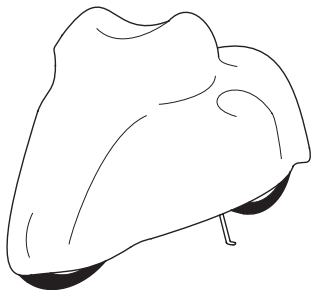
車のお手入れ

保管のしかた

お車はできるだけご自宅の敷地内に保管し、屋外に保管する場合はボディカバーをかけてください。

知識

- ボディカバーはエンジンやマフラが冷えてからかけてください。



長期間、ご使用にならない場合は次の項目をお守りください。

- 大事なお車をサビから守るために、保管する前にワックスがけを行ってください。また、雨上がりには一度ボディカバーを外し、車体を乾燥させてください。
- バッテリーは自己放電と電気漏れを少なくするため車から取外し、完全充電して風通しのよい暗い場所に保存してください。もし車に積んだまま保存する場合は、⊖側ターミナルを外してください。

ダンパユニットについて

リヤクッションのダンパユニットには、高圧チッ素ガスが封入されています。廃棄する場合は、Honda販売店にご相談ください。



高圧チッ素ガスが封入されたダンパユニットを火中に入れたり、穴を開けたり、分解したりすると、爆発や破裂するおそれがあり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

ダンパユニットは、

- 火中に入れないでください。
- 穴を開けないでください。
- 分解しないでください。

地球環境の保護について

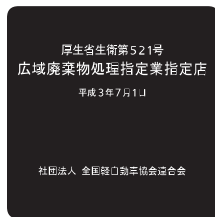
お車および部品等の廃棄をするとき

地球環境を守るため、使用済みのバッテリーやタイヤ、エンジンオイルの廃油等はむやみに捨てないでください。これらのものを廃棄する場合は、Honda販売店にご相談ください。

また、将来お車を廃車する場合も同様です。お車の廃棄を希望するときはお近くの廃棄二輪車取扱店へご相談ください。

《廃棄二輪車取扱店》

廃棄二輪車取扱店とは(社)全国軽自動車協会連合会の加盟販売店で廃棄二輪車取扱店として登録されている廃棄二輪車を適正処理するための窓口です。廃棄二輪車取扱店には「廃棄二輪車取扱店の証」が掲示されています。



廃棄二輪車取扱店の証

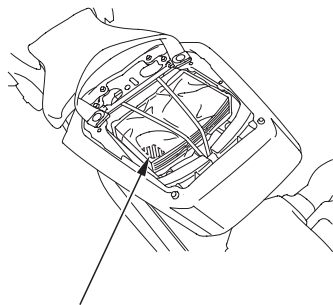
《二輪車リサイクルマーク／リサイクル料金》

この車には、二輪車リサイクルマークが車体に貼付されています。

マークが車体に貼付されている二輪車は、再資源化するためのリサイクル費用がメーカー希望小売価格に含まれていますので、二輪車を廃棄する際は、再資源化に必要なリサイクル料金はいただきません。

ただし、お車をお客様から廃棄二輪車取扱店および指定引取場所までの収集・運搬料金はお客様のご負担となります。収集・運搬料金については廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークは、リヤシートを取外すと(65ページ参照)確認できます。



二輪車リサイクルマーク



地球環境の保護について

《二輪車リサイクルマークの取扱い》

お車を廃棄する際、二輪車リサイクルマークが必要となります。

マークは車体から、剥がさないでください。

マークの紛失、破損による再発行および販売の取扱いはありません。

リサイクルマークの剥がれ等により、リサイクルマーク付対象車かどうか不明の場合は、下記の(財)自動車リサイクル促進センターホームページおよび二輪車リサイクルコールセンターにてご確認ください。

廃棄二輪車のお取扱いに関しては、最寄の廃棄二輪車取扱店または下記二輪車リサイクルコールセンターまでお問い合わせください。

(財)自動車リサイクル促進センターホームページ

<http://www.jarc.or.jp/>

二輪車リサイクルコールセンター

電話番号 03-3598-8075

受付時間 9:30~17:00

(土日祝日、年末年始等を除く)

ポジションランプについて

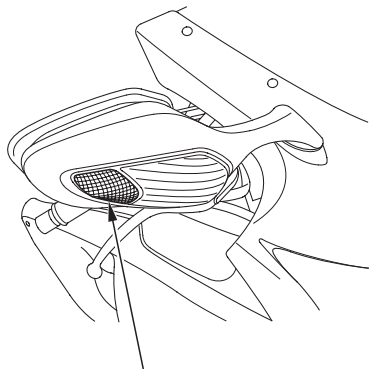
ストップ・テールランプについて

この車のポジションランプは、左右それぞれ2個のLEDを使用しています。

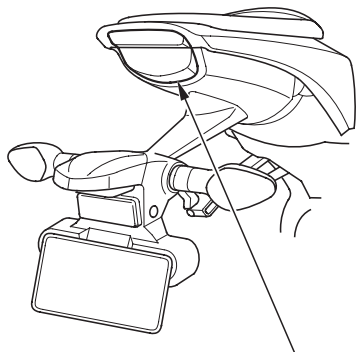
もし、1個でも点灯しなくなった場合は、Honda販売店にご相談ください。

この車のストップ・テールランプは、9個のLEDを使用しています。

もし、1個でも点灯しなくなった場合は、Honda販売店にご相談ください。



フロントポジションランプ

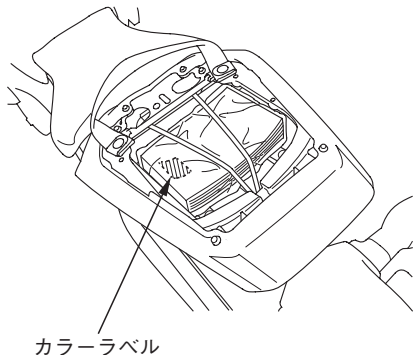


ストップ・テールランプ

色物部品をご注文のとき

色物部品をご注文のときは、カラーラベルに記載されているモデル名、カラーおよびコードをお知らせください。

リヤシートを取外すと(65ページ参照)カラーラベルが確認できます。



マフラの純正マークについて

マフラの後部には、Honda純正部品を表す“HONDA”マークが刻印されています。

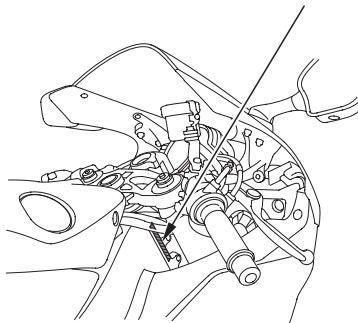


フレーム号機

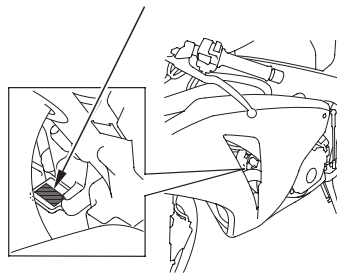
フレーム号機は、部品を注文するときや、車の登録に関する手続に必要です。

また、フレーム号機は、お車が盗難にあった場合に、車を捜す手掛りにもなります。ナンバープレートの登録番号と共に別紙に記録し、車と別に保管することをおすすめします。

フレーム号機打刻位置



エンジン号機打刻位置



オーバーヒートしたとき

《オーバーヒートの処置手順》

1. メインスイッチでエンジンを止め、再度メインスイッチを“ON”にします。

このとき、ラジエータの冷却ファンが作動するか、作動音で確認します。確認後、メインスイッチを“OFF”にします。

- 冷却ファンが作動しない場合：

故障が考えられますので、エンジンをかけず、Honda販売店にご相談ください。

- 冷却ファンが作動する場合：

メインスイッチが“OFF”の状態、エンジンが冷えるのを待ちます。

この車には、左右2個の冷却ファンが装備されています。それぞれの冷却ファンの作動水温が異なるため、片側の冷却ファンが作動していない場合でも異常ではありません。

2. エンジンが冷えてから、リザーバタンクの冷却水量を確認します。(113 ページ参照)

- 冷却水が不足していたら、リザーバタンクに補給してください。(114 ページ参照)

3. ラジエータホースなどを点検し、水漏れがないか確認します。

- 水漏れがある場合：

エンジンをかけず、Honda販売店にご相談ください。

- 水漏れがない場合：

走行可能です。ただし、異常が再発するときは、Honda販売店にご相談ください。

4. 異常が再発しない場合でも、なるべく早くHonda販売店で点検を受けてください。

エンジンが始動しないとき

始動しないまたは動かなくなったときは、次の点を調べてください。

- エンジンのかけかたは取扱説明書通りですか。
- 燃料タンクにガソリンはありますか。
- PGM-FI警告灯は点灯していませんか。
点灯している場合は、ただちにHonda販売店にご相談ください。

これらに該当しない場合は、次のことを行ってください。

1. エンジンストップスイッチが“○”(RUN)になっていることを確認します。
2. メインスイッチを“ON”にします。
3. チェンジをニュートラルにします。(ニュートラル表示灯で確認してください。)
4. スロットルグリップを全開にし、スタータスイッチを5秒間押します。
5. 次に82ページの始動要領でエンジンをかけてください。

6. エンジンがかかり、エンジン回転が安定しない場合には、スロットルグリップを少し開けてください。
7. エンジンがかからないときは、一度メインスイッチを“OFF”に戻して10秒以上待ってから、1から5までの手順を繰り返してください。

以上の手順を行ってもエンジンがかからない場合には、お近くのHonda販売店にご相談ください。

故障の修理

- お近くのHonda販売店にお申しつけください。
- むやみに修理しないで、早くHonda販売店で点検整備を受けることが、お車を長持ちさせる秘けつです。

主要諸元 《CBR1000RR》

型	式	EBL-SC59
長	さ	2,075 mm
	幅	680 mm
高	さ	1,130 mm
軸	距	1,415 mm
原 動 機 種 類 / 総 排 気 量		ガソリン・4サイクル/ 0.999 ℓ
車 両 重 量		201 kg
乗 車 定 員		2 人
タイヤサイズ	前 輪	120/70ZR17M/C (58W)
	後 輪	190/50ZR17M/C (73W)
最 低 地 上 高		130 mm
燃 料 消 費 率 ※		24.5 km/ℓ (車速60 km/h定地走行テスト値)
最 小 回 転 半 径		3.3m
圧 縮 比		12.3
最 高 出 力		87 kW (118 PS) / 9,500 rpm
最 大 ト ル ク		95 N·m (9.7 kg·m) / 8,250 rpm
燃 料 タ ン ク 量		17 ℓ

※燃料消費率は定められた試験条件のもとでの値です。したがって、走行時の気象、道路、車両、整備などの諸条件により異なります。

点 火 形 式	フル・トランジスタ式 バッテリ点火	
点 火 時 期	BTDC 3°/1,200 rpm	
アイドリング回転数	1,200 rpm	
点火プラグ	N G K	IMR9E-9HES
	D E N S O	VUH27ES
蓄電池（バッテリー）	12 V-6 Ah	
機関から変速機までの減速比	1.717	
クラッチ形式	湿式多板ダイヤフラムスプリング	
変速機形式	常時嚙合式	
変速機操作方式	左足動式	
変速比	1 速	2.285
	2 速	1.631
	3 速	1.333
	4 速	1.137
	5 速	1.033
	6 速	0.967
第一減速比	2.562	

主要諸元 《CBR1000RR ABS》

型	式	EBL-SC59
長	さ	2,075 mm
	幅	680 mm
高	さ	1,130 mm
軸	距	1,415 mm
原 動 機 種 類 / 総 排 気 量		ガソリン・4サイクル/ 0.999 ℓ
車 両 重 量		211 kg
乗 車 定 員		2人
タイヤサイズ	前 輪	120/70ZR17M/C (58W)
	後 輪	190/50ZR17M/C (73W)
最 低 地 上 高		130 mm
燃 料 消 費 率 ※		24.5 km/ℓ (車速60 km/h定地走行テスト値)
最 小 回 転 半 径		3.3m
圧 縮 比		12.3
最 高 出 力		87 kW (118 PS) / 9,500 rpm
最 大 ト ル ク		95 N·m (9.7 kg·m) / 8,250 rpm
燃 料 タ ン ク 量		17 ℓ

※燃料消費率は定められた試験条件のもとでの値です。したがって、走行時の気象、道路、車両、整備などの諸条件により異なります。

点 火 形 式	フル・トランジスタ式 バッテリ点火	
点 火 時 期	BTDC 3°/1,200 rpm	
アイドリング回転数	1,200 rpm	
点火プラグ	N G K	IMR9E-9HES
	D E N S O	VUH27ES
蓄電池（バッテリー）	12 V-8.6 Ah	
機関から変速機までの減速比	1.717	
クラッチ形式	湿式多板ダイヤフラムスプリング	
変 速 機 形 式	常時嚙合式	
変 速 機 操 作 方 式	左足動式	
変 速 比	1 速	2.285
	2 速	1.631
	3 速	1.333
	4 速	1.137
	5 速	1.033
	6 速	0.967
第 一 減 速 比	2.562	

サービスデータ

ドライブチェーンの緩み(たるみ)			25－35 mm
タイヤ空気圧	1人乗車時	前輪	250 kPa (2.50 kgf/cm ²)
		後輪	290 kPa (2.90 kgf/cm ²)
	2人乗車時	前輪	250 kPa (2.50 kgf/cm ²)
		後輪	290 kPa (2.90 kgf/cm ²)
エンジンオイルの量	全容量		3.7 ℓ
	オイルフィルタ交換時		3.0 ℓ
	オイル交換時		2.8 ℓ
クラッチレバーの遊び			10－20 mm
ヒューズ	メインヒューズ		30A
	FIヒューズ		20A
	ABSモータヒューズ (CBR1000RR ABSのみ)		30A
	ヒューズ		20A,10A

点火プラグの点火すきま		0.8-0.9 mm
エアクリーナエレメント	形 式	ろ紙式
電球(バルブ)	ヘッドライト	12 V-55 W × 2
	ストップ・テールランプ	LED × 9
	フロントウインカランプ	12 V-21 W × 2
	リヤウインカランプ	12 V-21 W × 2
	ライセンスランプ	12 V-5 W
	フロントポジションランプ	LED × 4

—メモ—

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず、Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、本田技研工業株式会社 お客様相談センターでもお受け致します。

全国共通フリーダイヤル オーハローバイク 0120-086819 受付時間 9:00~12:00 13:00~17:00

〒351-0188 埼玉県和光市本町8-1

所在地、電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、敏速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証や届出済証などの登録書類をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

- ①車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日
- ②車種名、タイプ名、走行距離
- ③ご購入年月日
- ④販売店名